

## No.27 >>> Contents

### ●提携支援センターから

- 福島県産『入金真綿』で真綿ふとんの活路を模索  
 ふくしまみらいシルクの会 西川産業株式会社 根本 宏幸…………… ①
- あきやま綾の手紬染織工房を訪ねて  
 ……………(財)大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 上席研究員 代田 丈志…………… ⑦
- 平成 24 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況…………… ⑫
- 提携支援センター活動日誌…………… ⑬

### ●提携事業と新蚕品種

- 繭糸が細い蚕品種  
 ……………(財)大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 所長 井上 元…………… ⑭

### ●蚕糸絹情報

- (財)大日本蚕糸会 創立 120 周年記念式典をはじめ蚕糸絹の祭典、盛大に挙行  
 ……(財)大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター 野村 郁治…………… ⑳

### ●蚕糸絹トピックス

- 「シルク・サミット 2012 in 東京」開催  
 (独)農業生物資源研究所 遺伝子組換えカイコ研究開発ユニット  
 ……………上級研究員 中島 健一…………… ㉔

### ●国内情報

- シルク遺産を訪ねて⑦ 調布市郷土博物館  
 ……………東京産業考古学会 副会長 平井 東幸…………… ㉘

### ●トピックス

- 国内産地情報、海外シルク情報(中国・インド)…………… ㉚

### ●イベント情報

- …………… ㉜

### ●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

- …………… ㉞

### ●蚕糸関係博物館一覧

- …………… ㉟

### ●蚕糸関係機関ホームページ一覧

- …………… ㊱

### ●統計資料(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

- …………… ㊲

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、インターネット (<http://www.silk-teikei.jp/>) でもご覧になれます。



## 福島県産『入金真綿』で真綿ふとんの活路を模索

ふくしまみらいシルクの会

西川産業株式会社 根本 宏幸

弊社は1566年近江八幡で創業し、以来446年の長きにわたり商売を続けさせて頂いております。東京では1615年桃山時代より日本橋のたもとに支店を構え「近江蚊帳」や生活用品を販売しておりました。

1947年からは、小売の店と製造卸を分業し現在は、卸売業として人形町に本社を移し寝装品全般の企画販売をしております。

### 真綿ふとんにたどりつくまで

古よりふとんの最高級品として真綿ふとんは、ごく一部のふとん屋さんが細々と扱っていましたが、ほとんどの繭が生糸や和装用の生地加工され寝具用として加工され流通販売されることは、ほとんどありませんでした。戦前、戦後を通じて、ふとんわたとして一般的なものは綿わたが主流であり、ふとんとしての価格は非常に高く逃げるための積立金制度の講もできたほどでした。

高度成長期を境に石油系のポリエステル素材の技術革新が進み、扱いやすいポリエステルふとんわたが台頭し、時代と共に変化し、大量生産・大量販売の時期を迎えま

した。

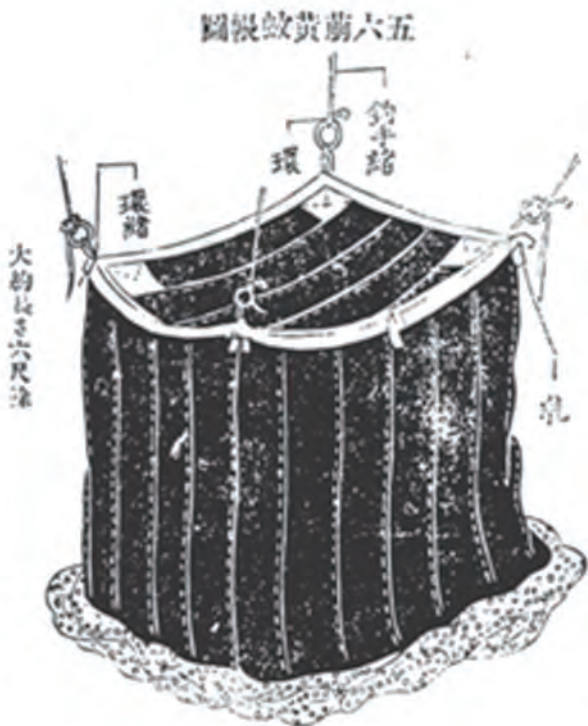
昨今は、欧米諸国より入ってきた羽毛が軽くて暖かいとの事で詰め物の主流になってきております。

一方、真綿をふとん用として扱うにはもう少々時間がかかりました。

今から、20年ほど前、未来の寝具の方向性を考えた際、これからの寝具に求められる機能とは、単に「眠るための道具」から、「健康」がキーワードになるであろう



西川のれん



取り扱い商品の蚊帳

と判断しました。もちろん素材・品質の追求は日々行っておりましたが、より良く機能性に優れた素材、手法の追求に着手しました。また、大量生産・大量販売にはない、高額であってもより健康的な商品としてのふとんを模索しておりました。同時に百貨店様専門店様向け最高級のふとんを提案しようとして、国内外の様々な高級素材を探している際、絹の生地は手に入りましたが、絹のふとんわたが、開発できないものかと試行錯誤しましたが、中国産のシルクノイル（カットわた）にたどりつき、加工することはできましたが、短繊維の為ふっくら感がなく、絹わたの良さが表現できず苦慮しておりました。福島県に加工先を持つ工場の方より量は少ないが手挽きの「入金真



手挽き実演 関根商店関根社長

綿」の情報を得ることが出来、福島県伊達市の関根商店様をご紹介頂きました。

しかしながら、当時は結城紬などの仕事が手一杯でふとん用としての手挽き真綿を扱っては頂けませんでした。

何度もお願いしてやっとふとん用としてある程度の量を確保できるようになりました。側生地として、当時は京友禅の絞りの羽二重や、日本各地の絹の側地を用い高価格帯ではありましたが、販売を始めました。

当初は真綿ふとんの良さを思うように伝えることが出来ず、販売数量も伸びず苦戦を強いられました。販促活動もどのようなことをすればよいのかもわからず試行錯誤の繰り返しでした。

### 販売手法の確立

ある時、お客様が「中身が見えないからどこが良いのか判らない。」とおっしゃいました。この一言が、当時の担当者にヒントを与えてくれました。

中身を見せてお店の担当者、最終的には

お客様に見て頂ければ良さがわかって頂けるはずと考え展示会において工程順に繭から袋真綿を陳列し、手挽き真綿の実演を行い真綿の作られる工程をじかに見て頂きました。想像していた以上に反響があり、販売するため、及び消費者に伝えるには知識や情報だけではなく目で見て、触って頂くことが最良の方法であると実感しました。

徐々にではありますが、御取扱い頂ける店舗も増え販売枚数も増やすことが出来るようになりました。

さらなる拡大を目指すため、展示会だけではなく、色々な機会を設けました。

①じかにお客様に接されるお得意様販売員の方々を保原町にお連れして、研修会を開き、「入金真綿」のできるまでを実体験して頂き店頭販売につながるように工夫しました。

②店頭で陳列販売をしていただく際にも繭、袋真綿を必ず販促物として真綿ふとんの横に置きお客様にじかに触って頂けるようにしました。少しずつではありますが、順調に販売枚数を増やすことが出来るよう



保原町での研修会

になりました。

### 真綿ふとんの将来

しかしながら、日本の農家の高齢化問題と時を同じくして、養蚕農家の減少による原料繭の確保が難しくなり、真綿ふとん販売の先行きに危機感を感じ、繭を確保する方法を模索しておりました。

また、真綿ふとんの品質を安定させ一定の供給体制を整えることの必要性も感じるようになりました。

純国産真綿ふとんの存続・育成を図るため、真綿ふとんの未来のために、福島県伊達地方の養蚕農家22戸、JA新ふくしま、JA伊達みらい、関根商店様等々の協力を得て、「ふくしまみらいシルクの会」システムプロジェクトを発足させました。

その全体の流れは、別掲のグループ体系図にもありますように、富田蚕種製造所で製造された蚕種、春嶺×鐘月、錦秋×鐘和、





保原町研修会

朝・日×東・海等をJA新ふくしま管内、JA伊達みらい管内の養蚕農家において飼育し、生産された繭は有限会社関根商店で袋真綿から手挽き真綿に加工し、当社西川産業が製品企画をし、その後指定の工場において、入金真綿ふとんに製品化し、全国の百貨店・小売店ほかに販売するというものです。

さらに、当グループでは、真に価値のある高品質真綿ふとんを広く消費者の皆様にお届けできるよう、年間販売計画に基づく情報交換会を定期的で開催し、繭生産量の打ち合わせ、高品質繭の計画生産等について協議し、永続的で発展性のあるグループ運営を目指しております。

## 入金真綿

御存知のように『入金真綿』は福島県産の最高級手挽き真綿です。産地としては、福島県伊達市保原町を中心とする一帯で、約370年前の慶長年間に製法が考案され、農家の副業として発展しました。

名前の由来は、形が貨幣に似ているとい

う説と、貴重品として扱われ、前金や現金取引ですぐに入金したからという説があります。皆様もご存じの高級呉服の結城紬と同じ原料繭から作られます。

繭から、練り→すすぎ→延ばし→乾燥・結束の工程を経ますが、延ばしの段階で、「袋真綿」にするのは、保原町だけです。

1.0kgの真綿ふとんを作るのに、約3000個の繭を「袋真綿」約650枚に加工し、最後に「袋真綿」を二人で挽き延ばし成形したものが、『入金真綿』です。全ての工程を手作業で行うことにより、独特の風合いを備えています。価値観もさることながら、絹の持つ機能（吸湿性・放湿性）が日本の四季に最適なふとんの環境を生み出すのです。

また、極細の長い糸の集合体で肌にそって優しくフィットし、繊維自体の熱伝導率が小さく、細い繊維の間に無数の小さい空気層ができるため、心地よい温度・湿度に保たれます。ふとんで問題視されていたホコリやチリが発生せず、抗菌防臭効果もあり、日本における寝具の素材としては最適の素材です。



入金真綿

---

---

## 小石丸 高田俊男先生のこだわり

側地については、最高級品として、日本の格式と伝統を重んじながら、現代の様式を融合させ常に新しい美を追求する高田俊男先生の妥協を許さない厳しい目が、糸、織り、柄そして色の全てに、こだわりを持たせ、古代から宮廷で用いられた宝相華（ほうそうげ）の紋様に現代の美意識を反映させた繊細で、美しいシルクが誕生しました。

小石丸は法規制の緩和により民間でも飼育できるようになりましたが、その養蚕は

大変難しいとされています。

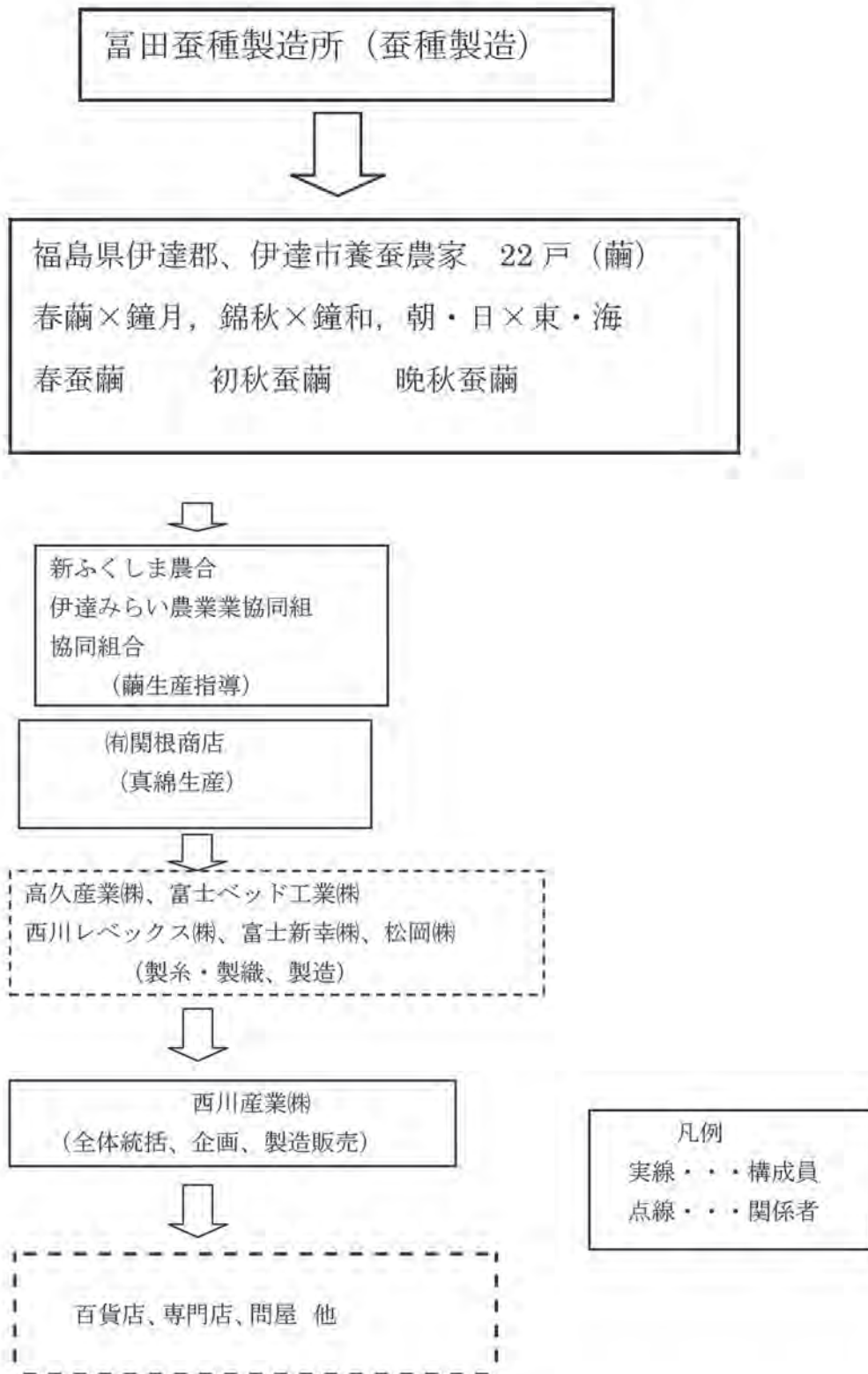
山形県の養蚕農家故加藤安治氏。平成六年、天皇杯を受賞した日本を代表する養蚕農家で育てられた小石丸を、日本を代表する山形の製糸及び製織メーカー松岡(株)で生糸にし、織上げました。側地はこの小石丸のジャカードを使い最高級の真綿ふとんに仕上げました。

上質な『入金真綿』を全国の百貨店、専門店様を通じて、「心地良く健康的な眠り」を日本中の人々にお届けしたいと思う気持ちで日々営業に努めております。



小石丸を使った高級ふとん

## 福島県「ふくしまみらいシルクの会」体系図





## あきやま綾の手紬染織工房を訪ねて

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所

上席研究員 代田 丈志

大日本蚕糸会の両研究所が行っている共同プロジェクト研究にあきやま綾の手紬染織工房の秋山眞和氏が参加しており、その会議の席上で筆者が工房を訪ねることを約束していた。なかなか都合がつかなかったところ、大日本蚕糸会・蚕糸絹文化活性化推進協議会の事務局より道明三保子氏と野村郁治氏とともに現地調査の依頼があり、快く承諾させていただいた。

かつて宮崎県には国の蚕糸試験場支場と県の蚕業試験場があって、カネボウシルク(株)の繭生産地のひとつであるなど、繭

生産の知識を発信する地でもあった。この地域で小石丸がどのように世代を継いできたのか、この目で確かめたいという動機もあった。

秋山氏の工房は宮崎市から北西に向かった綾町にある。空港の建物を出ると夕立後のように蒸し暑さとクマゼミの鳴き声が南の地を感じさせ、迎えに来ていただいた秋山氏の話す口調がさらにその印象を強くした。市内を流れる大淀川沿いに西に向かって40分ほど車を走らせ綾町に入った。工房は大淀川の支流のほとりにあり、展示室を中心に機織り室、繰糸室、染色室が併



写真1 展示場の藍染と大和貝紫



写真2 桑の実ジャム用桑園



写真3 養蚕用の桑園

設され、道を挟んで蚕種保護および稚蚕飼育を行う施設と壮蚕・上簇に使用する施設が配置されていた。このほかに製品を販売するお店を東京と綾町に出している。

展示室に入ると多くの製品が一枚の絵のようにバランス良く展示されており、藍染色のグラデーシヨンの世界が広がり、その中に大和貝紫に染められた製品が強い印象を持って眼に飛び込んでくる（写真1）。早速、展示室の隣の応接室で秋山氏ご夫妻から話を聞くことができたが、その内容を施設の説明に織り交ぜながらお話していきたい。

桑園は工房から川を挟んだ対岸と車で数分山に入った2ヶ所にあり、対岸の桑園は主に桑の実を収穫し、ジャムを作るための桑園であった。このところの不況により、本業の売り上げだけでは職員を雇用することが難しくなってきた、多角経営を余儀なくされているのが現状である（写真2）。

この桑園からさらに山道を走って側道に



写真4 稚蚕飼育室

入った場所に養蚕用の桑園がある。桑園を作り、蚕を自分で飼育することを覚悟したのはそれなりの理由がある。飼育を委託している農家の高齢化が進み、5年後には繭を生産する農家が無くなってしまわないかとの危機感がある。

もう一つ、これは宮崎県だけのことではなく全ての養蚕農家に言えることだが、農家を取り巻く環境が蚕の飼育を難しくしている。つまり、農業に農薬は付きものであるが、その農薬の規制が厳しくなり、比較的安全とされる昆虫成育制御剤（IGR剤）の使用量が増加していることである。この製剤に汚染した桑を蚕が食べると最終的には繭を作らなくなってしまう。

そこで、秋山氏は農薬の届かない森林に囲まれた桑園を造成したが、新たに問題が発生した。森林と桑畑の間に里山が無いため山から鹿やイノシシが出没し桑畑を荒らすようになったことである。いまでは山里でよく見られる風景となった電気柵をここでも設置して、これら野獣の害に対応し



写真5 壮蚕室

ている（写真3）。

養蚕技術については宮崎県蚕業試験場を退職した知識勝博氏、吉岡憲生氏が相談に乗って、各種の事業申請書の作成をはじめ、蚕種の保護、飼育に関するあらゆる技術面で相談に応じている。蚕種は、1989年に現在の農業生物資源研究所から小石丸を3蛾分けてもらったのが始まりで現在にまで至っている。

稚蚕は原種用の人工飼料（日本農産工業kk製）を使用して飼育していた（写真4）。稚蚕飼育所の隣に天蚕の飼育施設もあり、天蚕の糸と蚕の糸を混練して新しい作品制作に挑んでいた。

壮蚕室は稚蚕室から少し離れた場所であり、農家の飼育設備と言うよりむしろ我々の研究所の設備並みと言ってもよいほど整備され、普通品種1箱2万頭として、2箱程度飼育できる飼育装置が整っていた（写真5）。原種を飼育するためか中蚕室も整っており、春蚕期の低温に対する対応もできる施設になっていた。施設の環境管理に



写真6 上簇室

は、蚕業技術研究所が開発した蚕室洗浄剤がすでに導入利用されていた。

上簇室は壮蚕室と廊下でつながった別棟にすることで、上簇室で増殖した病原菌を飼育室内に持ち込まないように工夫をした配置になっている。天井にヨシズを使い風の通り道を作り、温度調節機も3台設置し、さらに簇器スライダーが2列取り付けてあり、回転簇を懸垂したまま移動させることができるなど、高品位の繭を生産する工夫が随所にみられ、繭の品質にこだわっていることがうかがわれた（写真6）。

この工房で生産している繭形は小石丸であるが私の知っている小石丸よりやや繭長が長めの小粒で繭層も薄かったが、繭を指で押してみたところ小石丸特有の繭の硬さは保持されていた。

縊れは浅いほうで、チヂラも粗くなく綺麗な繭であった。実家で蚕を飼育した経験もあり現在は繰糸を担当している染矢利子氏に聞くと小石丸を導入したころは糸取り

がはかどらなかつたが、最近は何問題なく繰糸ができるとのこと。

小石丸から座繰りで糸を取るの難しいことが知られており、この繭から良質の糸を取るために上蔭室の環境管理にこだわりを持った施設にしてあるのではないかと思った。収穫した繭は乾燥しないで冷蔵保存してあった。

繰糸室に入ると、二条で繰糸する座繰り機で蚕業技術研究所から送られた繭を10粒で繰っているところを見学でき、おおよそ24中の生糸が引かれていると推察した(写真7)。工房での小石丸は10粒付けで19中程度の細い糸だと聞いて最初、品種を疑った。私の知っている小石丸であるなら25～28中になるはずであるからだ。一般に織度は遺伝性が高く、普通に飼育を行えば品種の中でこれほど大きく異なることにはならないからだ。

疑問を持ちつつ次に、藍が鉢植えにしてある入口をくぐると、藍瓶の並ぶ染色室であった(写真8)。工房の藍染は灰汁発酵建ての手法で染めており、部屋には発酵時期

の異なる瓶がいくつも並び、発酵時間の差と染色液にくぐらせる回数など、職人の繊細な技術によって生糸が濃淡さまざまな藍色に染まっていく。

展示室から二階に上がると、機織り機が十数台整然と並んだ部屋に入った。(写真9)。機織りは一人2台を担当し、まったく異なった製品を織りあげている。案内してくれた秋山氏が「一つの織り機だけに関わっていると飽きてしまうので」と笑いながら話してくれた。

手作業の多い工房の仕事は作業する職員の技量に大きく左右される。同じ太さの糸を取っても全てが規格どおりにはできない。これを規格外と扱えば生産コストは跳ね上がる。細い糸から太い糸まで無駄なく使うための工夫が必要である。これを可能にしているのが、秋山氏夫妻が持つ感性であり、全てが無駄なく芸術性の高い製品として活用されていると感じた。

この工房を訪れるまでは、蚕種を購入した方が安上がりであるにもかかわらず、何故この地でコストをかけ小石丸の世代を継



写真7 繰糸室



写真8 藍染室



写真9 機織り室

ないでいるのか不思議であった。宮崎の地に来て2日間、秋山氏に綾町を案内していただきながら、工房を支える多くの関係者に話を聞くことによって、工房の小石丸の変化してきた様が真に理解できた。

たとえば、育種を行っていると分かるのだが、蚕は育成者が変わると少しずつ性質が変化することはよく知られているところである。宮崎に来た小石丸は、この地の気候風土にさらされ、冒頭に述べた宮崎の養蚕文化と工房の方々の気質に触れながら、二十数年の歳月の間に少しずつではあるが、綾町の小石丸に変わりつつあるのだろう。小石丸の変り様が最初に疑問となって感じられた私には、そのように考えると得心がいった。そして綾の風土から生まれた蚕の生糸だからこそ、その工房で働く人たちが作り出す絹製品に価値を見出すことができるのだろうと想いが至るのである。

実は2日目の朝方、秋山さんの絹工房には仕事前のお忙しい中にもかかわらず、工



応接室にての懇談  
左から道明氏、野村氏、秋山氏夫妻

房の10数名全員が集まってくれており、にわかに意見交換会が開催された。道明先生からは、秋山さんが絹工房を主宰する総合プロデューサーと現代の名工にも指定されている伝統工芸作家としての二つの立場から活躍されている様子が、また、野村氏からは、大日本蚕糸会が行う提携支援事業を中心とした蚕糸絹業全般に亘る最近の動向が、そして筆者からは、特に蚕品種や育蚕に関する最近の研究成果や問題点を、実際に見せていただいた絹工房の感想も交えてお話をさせていただいた。

熱心に耳を傾けてくださったみなさんの、日本の純絹製品をここ宮崎県綾町から送り出しているのだという自負心の籠もった熱い視線が印象的だった。

終わりに、快く我々を迎え入れていただいた秋山さん夫妻と工房の皆様にご挨拶を申し上げますとともに、一緒に行動された道明氏と野村氏のお気づかいに感謝を申し上げます。

## 平成 24 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 24 年度第 3 次審査会を平成 24 年 9 月 11 日 (火) に開催しました。今回、5 者 (うち、新規使用許諾申請が 2 者で新規製品が 4 品目、使用許諾されている者の製品の追加が 1 品目、製品の変更が 2 品目、生産履歴の追加が 1 品目) から申請があり、審査委員会で審査した結果 5 者に対し、9 月 18 日 (火) 付けで純国産絹マークの使用許諾をいたしました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規申請者) 株式会社つたや 代表者名：平岡幸子 (担当者：平岡幸子) 大阪府枚方市大垣内町 2-5-5 Tel :072-844-1131 表示者登録番号：170	後染反物 (小紋) (変一越) (紋意匠)	15 反 5 反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん (株)、芝井 (株) 染色 高田勝 (株)
(新規申請者) 株式会社京呉服 小糸伸輔の店 代表者名：小糸伸 (担当者：小糸伸) 熊本県熊本市東区東本町 1-32 Tel :096-368-2462 表示者登録番号：171	後染反物 (小紋) (変一越) (紋意匠)	25 反 5 反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん (株)、芝井 (株) 染色 高田勝 (株)
(製品の追加) 福続織物株式会社 代表者名：丸本繁規 (担当者：丸本徹) 福岡県福岡市西区泉 1-18-4 Tel :092-806-1223 表示者登録番号：162	(製品の追加) 先染帯地 (八寸名古屋帯)	100 本	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 前橋管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 染織 自社
(製品の変更) 装いの道株式会社 代表者名：山中啓嗣 (担当者：秋山徹) 東京都千代田区麴町 4-4-1 Tel :03-3230-3010 表示者登録番号：070	(製品の変更) 白生地 (帯地) 白生地 (表地)	100 本 35 反	蚕品種 いろいろり 繭生産 JA ちちぶ管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 江口機業 (株)、番國 (株)
(生産履歴の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当者：土井芳文) 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 Tel :027-361-2377 表示者登録番号：021	長襦袢地	300 反	(生産履歴の追加) 制作企画 絹小沢 (株) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 (株) 藤憲 精練加工 (有) 今井整理

年月日	活 動 内 容 等
24.9.11	(社) 日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
24.9.15	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会主催の展示会において使用する映像等の取材への同行 (茨城県)
24.9.19	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会WG (東京都有楽町 蚕糸会館)
24.10.9 ~ 24.10.10	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループに対する現地調査 (京都府)
24.10.16	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループに対する現地調査 (山梨県)
24.10.16	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループに対する現地調査 (福島県)
24.10.18	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループ展示会等打合せ (群馬県)
24.10.23 ~ 24.10.24	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループに対する現地調査 (長野県)
24.10.30	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る製糸業者との打合せ (群馬県)



9月19日開催 全国連絡協議会

## 繭糸が細い蚕品種

個性豊かな絹製品を製作するために、細くてコシのある糸が求められています。それらに適する 2.2～2.3 デニール程度の細い繭糸を生産する蚕品種を紹介します。

### 白繭細 1 号

平成 18 年 12 月に、(株) マルシバ及び(株) 三越(現、(株) 三越伊勢丹。)の方々が来所されました。冬場でしたので、人工飼料で育てた蚕が蛾になって産卵している状況を見学しながら、良いものづくりに向けていろいろと論議いたしました。とくに、繭糸が細い品種が望ましいとのことでした



図 1 蛾の産卵状況を見る(株)マルシバ(左)と(株)三越の関係者(中央3名)

(財)大日本蚕糸会 蚕業技術研究所  
所長 井上 元

ので、当所から「白繭細 1 号」を提案しました。

この時に白繭細 1 号の開発経過を説明するために作成したのが、図 2 の細織度蚕品種の系譜です。繭糸が細い細織度蚕品種としては著名な「あけぼの」という品種が育成されたのは 1987 年(昭和 62 年)です。その 3 年後の 1990 年から、「あけぼの」の原種を、当研究所の技師長が原種の改良を進め、途中から育成チーム長が開発を引き継いだ品種です。改良の目標は、①丈夫で発育の揃いが良くて農家が飼育し易いこと、②繭が小さめで繭糸が細めになること、そして③糸質の向上でした。

原種の日本種 2 系統と中国種 2 系統を交雑した四元交雑種です。試験飼育された農家は、飼いやすかったと言います。ちなみに、平成 21 年春蚕期の繭の繰糸成績をみると、繭の重さは 2.10 グラム、繭糸の長さは 1,342 メートル、繭糸の細さは 2.37 デニール、生糸量歩合は 16.5 パーセントで解じょ率は 82.4 パーセントでありました。



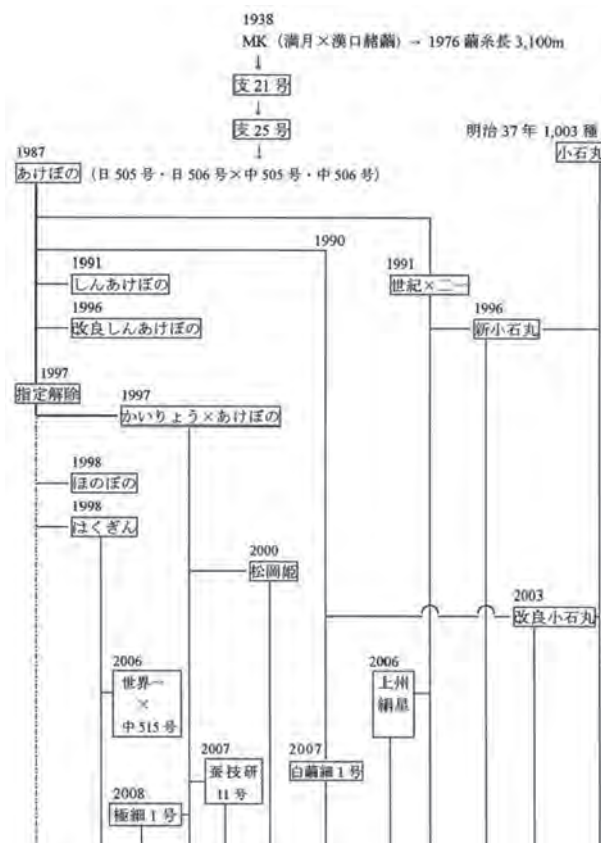


図 2 細織度系蚕品種の系譜

このような過程を経て、白繭細 1 号研究会が発足し、事業化に向けて進み始めました。お召し織り製作者からは、染色しても絹やせせず、ずっしりとした重量感があり光沢もある。織度が整って糸あしが十分に有り、総取りがスムーズにできました。糸質は強く、継ぎ目が少なく切れが起りにくく、21 中糸 2 本でも通常の糸より楽に撚れた。全体的に通常の糸に比べてかなり良質である、とのコメントをいただきました。

また、胴裏製作者からは、緯糸に用いた場合、糸自体は光沢が有り毛羽や節も非常に少ないため、糸の細さの割には糸に粘りがあって丈夫で、手触りがとてもツルツ

ルして、非常に良い糸である。経糸に用いた場合、通常の糸よりもだいぶ細いために、糸切れがあった時に見えにくい慣れると解消される、とのコメントが寄せられました。

これらのコメントは、平尾銀蔵氏が繭層セリシンを分析した試験結果から、セリシン 2 が多く精練抵抗性も大きいので、セリシン 2 が残ってその優れた特性が生かされる、従って、染料の吸収が極めて良く、ハリのある生地ができる、高級呉服に好適とみなされるとの所見を出されましたが、それとよく符合しています。

(株)三越伊勢丹はブランド名を「三煌(さ

んこう)」と名付け、初めての商品には正倉院御物の文様「花樹双鳥文」が織り込まれている白無垢を製作されました。

提携事業におけるその後を先日お聞きしたところでは、着物の評判は良くて、顧客は着心地が大変良いと評価しているとのことでした。

### かい・りょう×あけ・ぼの

1987年に農林水産省蚕糸試験場によって育成され、蚕糸業法にもとづいて国の指定品種となった「あけぼの」は、細繊度系蚕品種の名品種と言えます。四元交雑であるこの品種は、しかし、繭の端が丸くないいわゆるトガリ繭が出やすいことと、高温で乾燥すると繭に色が着くという、特徴を持っていました。

それを弱点とみた育成者は、その後「しんあけぼの」と「改良あけぼの」を作出して、こちらの使用を推奨され、品種指定されてから10年後の「あけぼの」再指定申請をいたしませんでした。



図3 白繭細1号の繭

しかし、あけぼの研究会の方々には、染色性に優れている「あけぼの」の継続使用を希望いたしました。そのような要請をうけて、当研究所が維持していた原種を用いて品種登録したのが「かい・りょう×あけ・ぼの」です(図2)。

それ故、「あけぼの」の直系ですから、四元交雑蚕品種で蚕の特性も「あけぼの」に類似しています。しかし、この品種を取り扱う過程で、繭が少し大きくなりましたので、付随して繭糸もやや太くなっています。

この品種の特長は、糸は丈夫で光沢があり染色性も良好で、細繊度の高級生糸用に適することに加えて、蚕が強健であることです。一例として、5月上旬は雨が多くて不順な天候に加えて、中旬から猛暑であった平成16年の春蚕期の農家の繭の成績を表1に示しますが、無事に蛹になった率(化蛹歩合)が普通蚕品種の春嶺×鐘月よりも高いのが目につきます。

この品種を扱ういくつかの提携事業で

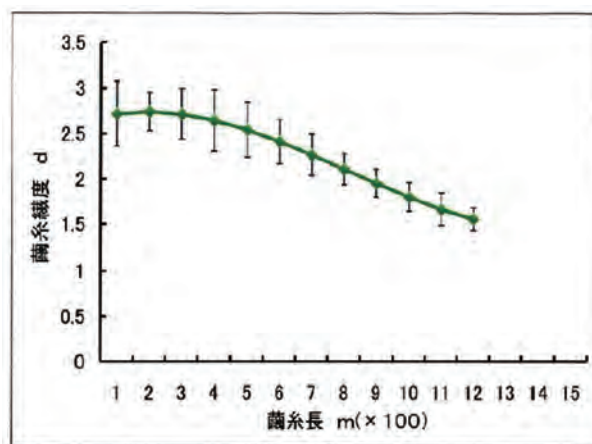


図4 繭糸の繊度曲線



図5 正倉院御物の文様を織り込んだ白無垢（三越パンフレットより）

は、ブランド名「あけぼの」で実施されています。「あけぼの」の繭から繰糸している西予市野村シルク博物館では、農家で生産された生繭を冷蔵保管庫に搬入しておいて、随時、多条繰糸機でゆっくりと糸を引いておられます。

### 細織度蚕品種の系譜図の紹介

図2に細織度蚕品種の系譜を紹介しました。この機会に説明いたしますと、昭和62年に山本俊雄氏ら（当時の蚕糸試験場）が、ハイブリッドシルクの作製、すなわちナイロン66の極細芯糸に巻き付けるために育成したのが、2.2デニールの繭糸を

生産する「あけぼの」でした。この品種は日505号、日506号、中505号、中506号という原種が使用されている四元交雑です。この「あけぼの」は名品種でありましたので、その後原種の一つまたは複数が他試験研究機関で活用され、手持ちの原種と交雑した様々な細織度系の品種が作られました。その状況をお示ししたのがこの図です。

例えば、明治時代の品種「小石丸」に中505号系が交雑されると「改良小石丸」になります。また、日本種系と中国種系の原種が使用されているのが、「松岡姫」と「蚕技研11号」です。



図6 かい・りょう×あけ・ぼの繭

一方、中国種の複数原種から由来して1.6デニールという極細の蚕品種「はくぎん」が生まれています。このように、「あけぼの」の血は現在の細繊度系蚕品種のほとんどに入っております。

このように利用頻度が高い「あけぼの」の、図中の中505号の育成過程の矢印を逆にたどりますと、支25号と支21号を経てMKにたどり着きます。このMKは、昭和13年（1938年）に蚕糸試験場の秦信親氏が、「満月」と「漢口楮繭」を交雑して選抜育成を開始しております。両品種の繭糸は各450m程度でしたが、育種材料間さらには選抜法との相性が良かったので、MKの繭糸はどんどん長くなって、昭和51年には3,100mに達しています。驚異的な世界記録です。

このように、日本の細繊度系蚕品種の開

表1 猛暑（平成16年）の春蚕期の農家飼育成績

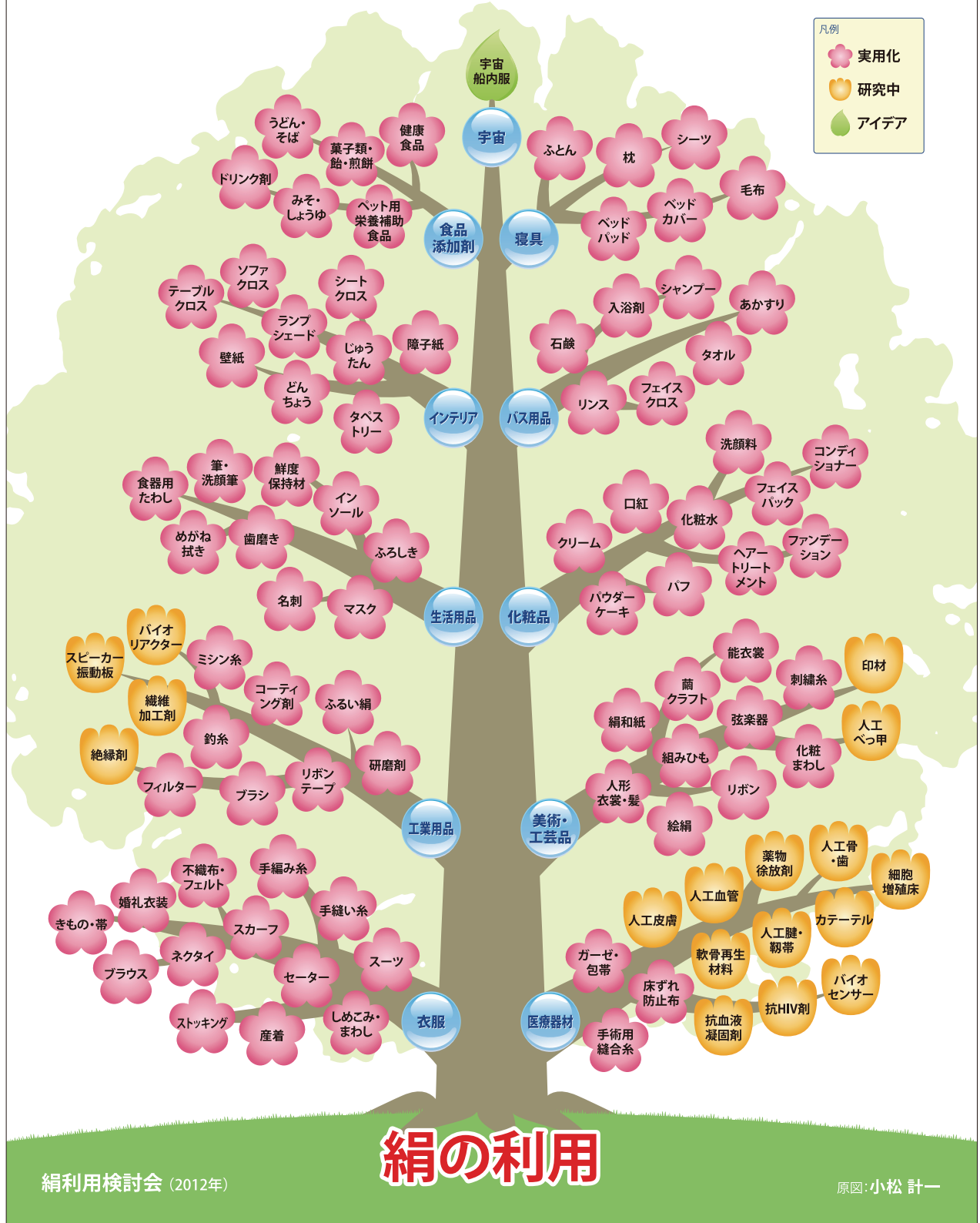
調査項目	かい・りょう ×あけ・ぼの	春嶺×鐘月
化蛹歩合	82.5 %	80.8 %
繭の重さ	2.06 g	2.11 g
繭糸の長さ	1,455 m	1,365 m
繭糸の太さ	2.30 d	2.72 d
生糸量歩合	18.23 %	19.53 %



図7 生繭から多条繰糸機でゆっくり繰糸（野村シルク博物館パンフレットより）

発は、現在、70年以上もの研究蓄積の上に立って進められているのです。このようなことは世界のどこをみても真似のできないことです。

# 絹利用の系統樹



## (財)大日本蚕糸会 創立 120 周年記念式典をはじめ 蚕糸絹の祭典、盛大に挙行

(財)大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター  
野村 郁治

菊香かおる 11 月 2 日、東京丸の内にある東京會館周辺は時ならぬ賑わいと厳重な警備の入り交じる喧噪のただ中であつた。

財団法人大日本蚕糸会（明治 25 年 4 月 17 日創立）は本年でちょうど 120 周年を迎え、その記念式典が 450 名ほどの参集者のもと盛大に挙行された。

本式典の白眉は当然のことながら、本会総裁であられる常陸宮正仁親王殿下のみならず華子妃殿下の両殿下が揃ってご臨席なされ、参集者ともども、厳かな中にも親しく式典の祝賀の中におられたことであろう。

ここで本会 120 年の歴史であるが、その詳細はこの度の祝賀式典のために編纂された「大日本蚕糸会創立 120 周年記念誌」と平成 4 年 3 月に本会創立 100 周年を記念して刊行された「大日本蚕糸会百年史」に譲るとして、ここでは、本財団の根幹をなしたともいえる本会歴代総裁殿下のご紹介をしておきたい。本会は明治 34 年の規則改正に際して、総裁には皇族を推戴することを定めたが、直ちには受け入れ態勢が整わず、明治 38 年に社団法人として組織替えが行われた時を機に同年 10 月に初代

総裁として伏見宮貞愛親王殿下をお迎えすることとなった。

その後の大正 2 年 8 月には、第 2 代総裁として、閑院宮載仁親王殿下を奉戴したが、昭和 17 年 5 月に本会が財団法人に組織替えした後も引き続き総裁殿下として 32 年間の長期にわたって総裁としての会務を統轄された。

その後、昭和 20 年 9 月に第 3 代総裁として梨本宮守正親王殿下を昭和 22 年 9 月に第 4 代総裁として皇太后陛下（貞明皇后）を、昭和 27 年 6 月に第 5 代総裁として高松宮宣仁親王殿下を、そして昭和 56 年 4 月から第 6 代総裁として現在の常陸宮正仁親王殿下を奉戴して今日に至っている。

### 参集者の心に響く

#### 総裁殿下のおことば

いよいよ 120 周年記念式典の開催である。開会のあと本会高木会頭が以下のような概要の式辞を述べた。

「大日本蚕糸会は本年で創立 120 年を迎えましたが、蚕糸絹関係の研究開発による技術力を基に蚕糸絹業界への技術支援から各種の表彰、助成等の奨励事業まで、他の



御言葉を述べる常陸宮総裁殿下

団体にはないユニークともいえる諸活動を展開してまいりました。

明治38年の法人化以来、総裁には御皇族を奉戴してまいりましたが、本日は現今の第6代総裁・常陸宮正仁親王殿下並びに華子妃殿下のご臨席を賜り、私ども蚕糸絹に係わる者にとっておおいなる名誉と励ましになっております。

今から20年前にこの東京會館で百周年の式典を挙げましたが、その後の20年間の経済変動は特に激しく、蚕糸絹業界も輸入圧力、生活様式の洋風化等々により生糸から絹製品に至るまで厳しい局面に立たされています。

しかしながら、そのような逆風の中にあっても、わが国独自の養蚕、製糸、染め、織り各分野の技術に支えられた絹文化、きもの文化は脈々と承継されてきております。また、本会は平成20年2月から蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業を推進し、差別化された価値の高い純国産絹製品づくりに

邁進しており、着々とその成果を上げつつあります。今後とも皆様方の益々のご協力とご支援をお願いいたします。」

式辞に続き、

常陸宮総裁殿下から御言葉が述べられた。

「本日、大日本蚕糸会創立120周年式典を迎えるにあたり、蚕糸関係者および学会のみなさんと共に祝うことができたことを、大変うれしく思います。大日本蚕糸会が明治25年に創立されて以来、蚕糸業がわが国の重要な輸出産業となされた明治、大正のころから、国内消費向けが中心となった昭和から平成まで一貫して蚕糸絹業の振興と蚕糸絹文化の継承、発展に貢献し、ここに120周年を迎えたことを誠に喜ばしく思います。

特にこの20年間は厳しい経済環境にありましたが、養蚕、製糸、染織などの関係者のみなさんが手を取り合って良い絹織物



総裁殿下から恩賜賞の賞状を受ける渡邊隆夫氏

づくりに取り組まれました。また、蚕の生物学的研究による知見は、他の研究分野にも広く活用されるようになりました。

みなさんのたゆみない努力と創意、工夫の成果により、蚕糸絹業の振興と蚕糸絹文化が益々発展する事を心から願っています。」

次いで、郡司彰農林水産大臣からは 次のような内容の祝辞があった。

「大日本蚕糸会は120年もの間、我が国蚕糸業の振興・発展に多大なる貢献をされました。我が国の蚕糸業は近代日本の経済発展を支える重要な役割を果たしてきた歴史があります。今日においても、和装をはじめとする我が国の伝統文化を支える地域産業として重要であり、また、皇居内では皇室行事として、紅葉山御養蚕所において御養蚕が行われております。

農林水産省は国産の繭・生糸から作られた絹製品を国産ブランドとして確立し、輸入品とは差別化し我が国蚕糸業及び絹業の

持続的発展を図ってまいりたい所存です。

この記念すべき日を節目に、貴会の一層の飛躍と蚕糸業へのご貢献を願うところであります。」

最後に、社団法人日本生糸問屋協会の樋口泰三会長より、

「我が国の蚕糸絹業は、各地で特徴ある絹織物を生産する地場産業として発展し、世界的にも極めて貴重な文化財ともいえるものです。私ども生糸問屋業界は、蚕糸絹業の流通部門を担い、産業と絹文化の維持発展に努力をしてまいりました。このことから現在、大日本蚕糸会が実施されている蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に期待する所が大であります。」

との内容の祝辞が述べられ閉会となった。

**同会場で、本会表彰式、**

**シルク・サミットも併せ挙行**

当日は、120周年記念式典に併せ、恒例の大日本蚕糸会表彰式が挙行され、栄えある受賞者として、恩賜賞には、前・日本絹





**シルクサミットで語る女優の紺野美沙子さん（右側）**

人織物工業会会長で西陣織工業組合理事長の渡邊隆夫氏が、蚕糸功績賞には、文化学園大学名誉教授の道明三保子氏、松岡株式会社の前社長で同取締役相談役の鈴木重雄氏、碓氷製糸農業協同組合代表理事組合長の高村育也氏、名古屋大学名誉教授で前日本蚕糸学会会長の小林迪弘氏の各氏が受賞された。

さらに、蚕糸功労賞 36 名総代には株式会社千總 代表取締役会長の西村總左衛門氏、蚕糸有功賞 29 名総代には養蚕後継者の糸井正雄氏、貞明皇后記念蚕糸科学賞には絹の中性還元精練技術開発の平尾銀蔵氏、カイコサイポウウイルスの構造解析に基づいた機能性タンパク質創出技術開発の森肇氏の各氏が表彰され、最後に受賞者総代表答辞を恩賜賞受賞の渡邊隆夫氏が述べられた。

さらに、当日は蚕糸絹の祭典の一環として、

「シルク・サミット 2012 in 東京」

—蚕糸絹文化の今を考える—

も同東京會館 12 階「ロイヤルルーム」

で開催され、日本学士院会員、東京大学名誉教授石井寛治氏の基調講演「わが国の経済発展に果たした蚕糸絹業の役割」を皮切りに、女優紺野美沙子氏とフリーアナウンサー青木玲子氏の対談、「絹・きものへの思い」、さらに講演が二つ、株式会社銀座もとじ代表取締役泉二弘明氏の「銀座で再生する純国産絹製品—プラチナボーイー」、江戸小紋・江戸更紗 株式会社富田染工芸代表取締役富田篤氏の「東京・早稲田でがんばる江戸小紋」と盛りだくさんの内容で多くの聴衆を魅了した。

また、今回の展示企画として、ロイヤルルームにおいて、蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会の主催で、「純国産絹製品展示会」が開催された。

各種の絹製品を展示する傍らでは、視聴者参加型のインターラクティブ映像「純国産《宝絹 takaraginu》～奇跡の糸ができるまで」（平成 25 年 1 月 14 日～ 15 日に銀座三越において開催の「純国産《宝絹》展」において一般公開の予定）のプレ上映も行われ関係者の熱い視線を集めていた。



サミット会場では純国産絹製品等の展示も

## 「シルク・サミット 2012 in 東京」開催

(独)農業生物資源研究所  
遺伝子組換えカイコ研究開発ユニット

上級研究員 中島 健一

### はじめに

今年で13回目となる「シルク・サミット」を11月2日に東京會館で開催しました。今回は(財)大日本蚕糸会の120周年記念事業の一環で、「大日本蚕糸会創立120周年記念シルク・サミット2012 in 東京」と銘打ち、「蚕糸絹文化の今を考える」をテーマに280名余の参加者を得て、盛大に開催することができました。また、会場では同時に「蚕糸・絹業提携事業関係者による純国産絹展示」も行われ、純国産絹を使用した優れた着物やドレスの展示および

ショーや、ビデオ上映等で賑わっていました。

ご承知のとおり「シルク・サミット」は、これまで培ってきた蚕糸技術やシルク文化を継承・発展させるだけでなく、新たなシルク文化を創造するため、カイコやシルクに関する研究開発、養蚕・製糸・染織等の生産活動、シルクに関する博物館・資料館活動、地域における工房等のグループ活動に関わる人々、さらにはシルクに対する強い関心や熱い想いをもちた人々がネットワークをつくり、相互に意見交換、情報交



基調講演 (石井寛治先生)



対談（紺野美沙子さん（右）、青木玲子さん（左））

流、技術交流を行うことを目的としています。これまで岡谷を皮切りに、蚕糸業にゆかりの深い町を巡って開催してきました。今回の「シルク・サミット」ではそのテーマのとおり、蚕糸絹文化の歴史を再認識するとともに、未来へのヒントが得られたような気がしています。

## 内 容

最初に、石井寛治先生（日本学士院会員・東京大学名誉教授）からは、「わが国の経済発展に果たした蚕糸絹業の役割」と題して、日本の蚕糸絹業が果たした役割と歴史について、生糸統計、養蚕・製糸技術や中国・イタリアとの比較から、その原因について詳細なお話がありました。日本の生糸が世界を凌駕したのは、一つには受け入れ基盤の条件に適合するように改良された「適正技術」の創造があったことと、もう一つは「一代交雑種」という画期的な新蚕種の

創出と普及があったからこそという紹介がありました。このことは産・官・学の協力があったからこそ成し得たもので、今後の道標にもなると思われまます。

また、科学技術を利用した新製品の創造などにより、蚕糸絹業が新しい絹文化の道を切り開くための提言を頂きました。

次に、紺野美沙子さん（女優）と青木玲子さん（フリーアナウンサー）による「絹・きものへの思い」についての対談では、紺野さんの着物に対する思いを、実際の着こなしや立ち居振る舞いなどから、他の女優さんなどの例も紹介しながら、ユーモアを交えて語って頂きました。女性には虫をいやがる人が多くいますが、紺野さんは意外にも「イモムシ」系は好きで、ご自宅のベランダで「アゲハ」を飼育しているという秘密情報も語られました。

また、美智子皇后陛下が眞子様にとられ

た手紙の朗読や、10年前にブータン王国を訪問した際の思い出などから、日本の近代化を支えた絹について、今の若い人達にもっと知って欲しいという思いを語られました。

その後、休憩を挟み2名の方から活動事例報告がありました。一人目の泉二弘明社長((株)銀座もとじ)からは、「銀座で再生する純国産絹製品ープラチナボーイー」と題して、以前はカイコや繭のことを全く知らないで販売をしていましたが、15年前の息子さんのちょっとした質問から、たくさんの人に着物の原点も知ってもらいたいと思い、ご自分の店舗で実際にカイコを飼育したこと、これがきっかけで「プラチナボーイ」に出会ったいきさつについて話



活動事例報告 (泉二弘明社長)

がありました。さらに、養蚕農家の方と着物との触れ合い活動の紹介とともに、これはトレーサビリティにもなっているとの紹介がありました。

今後、作り手とお客さんとの橋渡しを

していきたくと熱く語られていました。

二人目の富田 篤社長((株)富田染工芸)からは、「東京・早稲田でがんばる江戸小紋」と題して、富田染工芸の歴史を先代の方々の活動や、ご自分の実体験などから紹介して頂きました。京都出身の初代が明治の初めに浅草の馬車道で創業し、神田川の清流を求めて2代目の時に西早稲田に移転し、現在は5代目になるそうです。5代目



活動事例報告 (富田 篤社長)

の富田さんは、おばあさんから聞いた「ケセラセラ」をモットーに、東京の粋とモダンなセンスでお洒落な着物を製作するとともに、新しい着物作りを目指しているということでした。

また、制作工程の紹介や、江戸時代の貴重な袴の留柄・町人用の小紋などの紹介もして頂きました。

## おわりに

来年の「シルク・サミット」は沖縄県久

---

---

米島町でこの時期に開催する予定です。日本各地で養蚕・製糸・染織等の生産活動をしている方や博物館・資料館で地域の方と一緒に活動している方、絹工房等の地域活動をしている方々が相互に意見交換や情報・技術の交流ができればと思っています。

ます。初めて本州を離れる記念すべきイベントでもありますので、少し距離はありますが大勢の方のご参加をお待ちしています。

「うちなーんかい、めんそーりよ～」



会場風景



純国産絹展示風景

シルク遺産を訪ねて⑦

## 調布市郷土博物館

東京産業考古学会

副会長 平井 東幸

東京都調布市の郷土博物館には、シルク遺産がおよそ60点保存収蔵されている。常設展示はされていないが、予め申し込みば一部の見学は可能である。都内でも、なかなか貴重なシルク関係の遺産が、当館をはじめ羽村、八王子等の郷土博物館で保存されており、順次紹介していきたい。

調布市郷土博物館は、京王多摩川駅から徒歩4分の立地に恵まれたロケーション、2階建てで昭和49年のオープン（写真1）。ただ、意外に規模の小さい施設ではある。1階が企画展示室、2階が常設展示場であ

る。関口宣明学芸員のご案内により収蔵庫でシルク関係資料を見学した。所蔵品内訳を同館の資料目録から整理するとおよそ次の通り。

座繰、牛首等の糸取り・・・12点／屑繭処理具・・・3点／製糸用具、糸車・・・14点／糸枠・・・20点／織機・同附属品・・・3点／絹糸計量具・・・2点／羽織等の着物類・・・若干点

その中で、主なものとしては、

①百回し・・・総巻き器であり、木製のギアの簡単な機構で100回廻すとチーンと鉦が鳴り糸の長さが約130mとなる仕



写真1 調布市郷土博物館全景

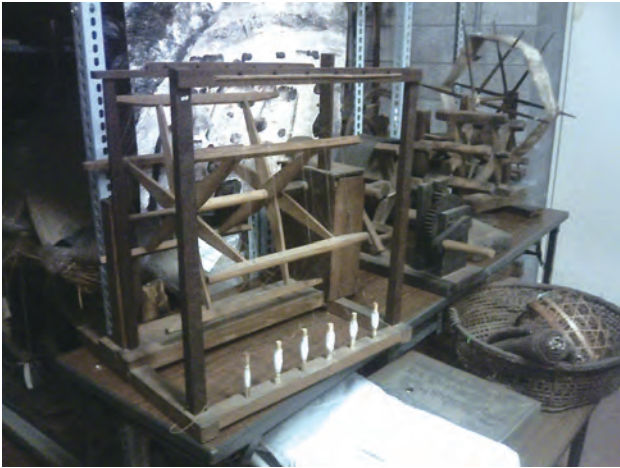


写真2 同館収蔵庫内の百回し  
(同館の許可を得て撮影)

掛けが面白い。写真2は明治19(1886)年の製造で、昭和30年頃まで市内で使われていたもの。

②牛首(うしくび)・・・糸を巻き取る木製の道具

③座繰・・・同じく糸を巻き取る道具であるが、木製ギアとハンドルがついて、牛首よりも能率的。幕末から明治にかけて多摩地方で広く使用されていた。

④明治時代の製造で昭和まで使用されていた高機

このようなシルク関連の用具等が収蔵されており、当時の養蚕製糸産地の歴史をしのばせている。

同館では、冒頭に触れたように、これらのシルク遺産の常設展示はしていないが、館内に常備されている「解説シート」は充実しており、これが参考になる。また、公開講座等では、養蚕製糸織布関係の研究報告が行われていることもこの地・・・すなわち多摩地方がこの時代に養蚕業が大変盛んであったことが背景にある。

因みに、調布市のシルク産地の歴史をみると、比較的新しい。すなわち、幕末から農家の副業としての養蚕が本格化し、そのピーク時の明治から大正期には農家の7～8割は養蚕に従事していた。「明治30年代には、水車を動力とした製糸工場」も登場、大正14年の東京府大養蚕家の第5位には調布市(当時は北多摩郡神代村)の養蚕家がランクされている(『東京都蚕糸業史』)。なお、調布はその地名からして織物に関連しているが、資料的にはその語源が確認できないという。

終わりに、これらのシルク遺産は文化財指定を受けていないが、市当局では是非指定して、その保存に一層努めて頂きたい。これらの資料は、単に民俗資料としてだけでなく、産業遺産としても後世に継承すべき価値があるからである。

(写真撮影、筆者)

なお、調布市に行かれる際には、ついでに同館の別館である水車館を見学されることをお勧めしておきたい。

■調布市郷土博物館(休館日:月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始等)  
開館時間:9:00-16:00  
所在地:東京都調布市小島町3-26-2  
Tel:042-481-7656  
アクセス:京王線・京王多摩川駅から徒歩4分  
入館料:無料

## 国内産地情報

### 絹織物産地の概況（9月）

#### 丹後産地以外は減産、採算は厳しい

##### <原糸>

中国の原料生糸価格は、強含みで推移している。織物の動きが鈍いため現物の商いは慎重で当用買いとなっている。在庫はおおむね適正な状態である。

##### <白生地>

- ・縮緬＝丹後の9月の生産は、前年比102%で、無地は91%となり相変わらず厳しい。紋生地は106%と好転した。稼動日数は22日で前年より1日増であった。
- ・長浜の生産は、前年比94%で減産率は縮小した。稼動日数は16日で前年同であった。
- ・五泉は、生産反数が21%の減であった。
- ・福島は、受注減少により、生産、操業ともに若干落ちている。
- ・福井の生産は、広幅羽二重は前年比93%で在庫はたまり気味、小幅羽二重は82%で輸入品との価格格差がある。
- ・石川は、相変わらず小口商内が続いている。
- ・群馬・埼玉は、群馬が前年比86%、埼玉が前年比82%と二産地ともに減産となった。

##### <先染織物>

- ・帯＝西陣は、生産は値頃商品については安定的に生産されているようだが、中、高級品は減産が続いている。売れ行きは、実需期に入ったが活気はなく、特に振袖が不振であった。各メーカーとも対策に苦慮している。採算は厳しい状況が続いている。
- ・博多は、紋八寸名古屋帯、平地八寸名古屋帯、小袋が増産、他の紋袋帯、佐賀錦は減産となり、全体で9%減となった。
- ・十日町は、付下げの売れ行きが好調であった。生産は振袖が前年を上回ったが、全体では前年の3%減となった。
- ・米沢は、呉服の生産は需要期に入ったが荷動きはまばらで生産に結び付いていない。服地はシーズン物の追加発注の動きが続いており、他の発注も見られる。輸出物は円高や世情不安の中で仕事の話は全く聞こえず大変な状況となっている。採算は荷動き次第ではあるが、苦しい状況が続いている。
- ・山梨は、服地は売れ行きが良くない状況が続き、サンプル織りの量も少ない。ネクタイは、一部に動きはあるが全体としては生産量が少ない。採算は良くない。
- ・西陣のネクタイは、ロードサイド関係の発注が10月中旬に出る予定となっている。

(9/1～30の概要)

\* (社)日本生糸問屋協会「月報」24.10.15、第765号による。



---

---

## 海外シルク情報

### 中国

#### 本年上半期（1～6月）の中国シルク輸出概況

最新中国海関（税関）統計によれば、本年度1～6月累計のシルク商品輸出状況は、総輸出金額15.82億ドルで対前年比9.8%減少となり、中国シルク輸出は、欧州の債務危機とこれに伴う国際経済の停滞の影響を受け本年当初から停滞が続いている。

この輸出内容は、生糸など蚕糸原料糸類の輸出額は3.08億元（40億円）で対前年比16.6%減少、絹織物輸出額は、4.93億ドルで対前年比6.6%減少、シルク製品輸出額は、7.81億ドルで対前年比8.9%減少した。

主な特徴についてみると、

#### （1）伝統的輸出市場向けは軒並み減少、特にイタリア向けは大幅減

1～6月累計輸出額順のトップ5をあげると、アメリカ、インド、イタリア、日本及び香港であり、いずれも従来からの有力輸出市場である。この5市場が全体の55.8%を占めている。この中で香港向けを除いて、その他の4市場は軒並み対前年比で減少している。アメリカ向け10.6%減、インド向け22.8%減、イタリア向け25.4%減、日本向け11.6%減となった。

#### （2）主要輸出産地別輸出も軒並み減少、広東省の減少率が最大

この間の産地別輸出額は順に浙江省、江蘇省、広東省、上海特別市、四川省であり、これら5産地の輸出額は全体の82.5%を占め、中でも浙江省の輸出額は6.11億ドルで全体の38.6%を占めて他産地を大きく引き離している。しかし、国際経済不振の影響を受けて対前年比で見ると、この主要5産地の輸出は軒並み減少して、特に広東省の減少率は大きく20.1%も減少している。

#### （3）主要品目の輸出数量は減少、輸出価格は低落と上昇が相半ば

この間の主要シルク品目の輸出数量は、全世界的レベルでの景気不振によるシルク需要が萎縮している影響を受け、減少している。また、輸出価格（単価）について、生糸など蚕糸

---

---

原料糸類は昨年上半期まで続いた、かつてない程の国内繭・生糸価格が昨年7月から低落に転じて今年に至っているため、これらの糸類輸出価格は前年に比べ低落している。一方、生機（未精練織物）とシルク製品の輸出価格は、前年に比べ上昇している。

#### （4）最近の日本向け中国生糸の輸出価格

経糸用銘柄生糸で55～56ドル／キロ、緯糸用普通生糸はこれの2～3ドル安で推移している。

（注）円換算は1元＝13円。

## インド

### インドの生糸生産量倍増へ

インドのシルク産業振興機関である中央シルク局（CSB）では第12次5カ年計画（2012～2017年）中に279.9億ルピー（414.3億円）を投資してインドの生糸生産量を現状より倍増する大増産措置を取ることとなった。

この投資額は前回の5カ年計画の2.5倍になり、同中央シルクの計画では、この間において桑園面積を17万ヘクタールから85万ヘクタールへ5倍も拡大することとし、これまでの伝統的養蚕主産地のみならずその他の小規模養蚕産地においても、繭を増産させる方針である。（インドでは28州中22州で養蚕が行われている。）

この繭大増産を図ることから、今後5～8年後には生糸生産量を現状の2万3,000トン（38万3,000俵）から4万7,000トン（78万3,000俵）へと倍増させることを目標としている。

インドでは、生糸需要として、サリーという伝統的な民族衣装があり、自国の生糸生産だけでは、その旺盛な需要をまかなうことが出来ず、毎年5,000トン～10,000トン余の生糸を中国からの輸入に依存している。このことが、この大増産計画の背景にあるのであろう。

（注）1ルピーは約1.48円。

\*（社）日本生糸問屋協会「月報」24.9.14第764号及び24.10.15第765号による。

# イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日(期間)	場所・主催者等
<p>○純国産≪宝絹 takaraginu≫展</p>	<p>日本の近代化と共に歩んだ絹産業の歴史や「日本の絹」の魅力を紹介し、遺伝子組換え技術を用いて育てた貴重な「光る繭と絹糸」などを展示。さらに、特殊な繭により作られた希少な着物から、より日常に根ざしたニット、小物類まで、純国産絹製品を幅広く展示します。</p> <p>また、蚕の歴史と文化を紹介するセミナーや染色の実演、繭玉飾り作りの体験など、来場者が参加できるコーナーのほか、蚕が絹糸を作り出す過程を映像で紹介するなど、親子連れでも楽しみながら学ぶことができます。</p>	<p>平成 25 年 1 月 14 日(月・祝) ～15 日(火) 〔予定〕 14 日 午前 10:00～ 午後 8:00 15 日 午前 10:00～ 午後 5:00 入場料 無料</p>	<p>東京・銀座三越 9 階 銀座テラス 東京都中央区銀座 4-6-16 TEL03-3562-1111 主催 蚕糸・絹業提携グループ 全国連絡協議会 後援 財団法人 大日本蚕糸会</p>
<p>○日本絹の里 第 24 回企画展 「ちりめん 創作人形展」</p>	<p>ちりめんの古裂等を使い、日本古来の日常生活をモチーフにした人形を制作している人形作家・竹本京氏の作品を中心とした展示。</p>	<p>平成 24 年 10 月 27 日(土) ～12 月 10 日(月) 午前 9:30～ 午後 5:00 休館日 毎週火曜日 入館料 一般 400 円 大高生 250 円 中学生以下無料 (団体割引あり)</p>	<p>群馬県立 日本絹の里 群馬県高崎市金古町 888-1 TEL 027-360-6300</p>

# 純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 24 年 9 月 18 日現在

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、黒留袖、喪服）、胴裏
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、後染帯地
3	有限会社 ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ネクタイ、ニットタイ、ベスト、服飾品（ソックス、ショール、ストール、スカーフ）
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	後染反物（作家作品）、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯）、後染帯地、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛
12	河瀬満織物 株式会社	先染帯地
13	有限会社 織匠小平	先染帯地
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	株式会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二）、後染帯地（（冬物、夏物）うるし糸が5%を超えるもの）、喪衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21世紀の絹を考える会	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、マフラー
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠 万勝	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物、先染帯地（袋帯：金銀糸が5%を超えるもの）
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウオーマー、腹巻、手袋、靴下））
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（江戸小紋、友禪、色無地）、後染帯地
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、長襦袢地
31	株式会社 さが美	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、後染帯地、白生地（表地）、胴裏
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 樹屋高尾	先染帯地（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社 小倉商店	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
42	染織家 柳崇	先染反物、先染帯地
43	染織家 児玉京子	先染反物
44	草木染工房 山村	先染反物、先染帯地、ストール

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
45	手織り よおん	先染反物、先染帯地
46	祝嶺染織研究所	先染反物、先染帯地
47	株式会社 龍工房	帯締
48	からん工房	先染反物（紋紹、緋）、先染帯地
49	たわた工房	先染反物、先染帯地
50	山音 株式会社	後染反物（色無地（変三越、駒紹））
51	やまと 株式会社	後染反物
52	株式会社 御園織物	先染反物、先染帯地
53	桜井 株式会社	先染帯地
54	有栖川織物 有限会社	先染帯地
55	太田和 株式会社	結城紬（先染反物、先染帯地）
56	株式会社 岩田	先染帯地
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物 株式会社	先染帯地
59	株式会社 やまと	先染帯地、先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
60	田中種 株式会社	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、黒紋付、加賀友禅）、後染帯地（九寸名古屋帯）
61	株式会社 京扇	後染反物（色無地）、胴裏（パールトーン加工）
62	株式会社 なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井 株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物（帯揚、半衿）
65	加賀グンゼ 株式会社	胴裏
66	千切屋 株式会社	後染反物（訪問着、付下）、後染帯地
67	荒川 株式会社	和装小物（帯締、帯揚）
68	第一衣料 株式会社	後染反物（色無地）
69	株式会社 紅輪	後染反物（色無地）
70	装いの道 株式会社	白生地（帯地、表地）、胴裏（トルマリン加工、灰汁浸け加工、ぐんま200、新小石丸）
71	株式会社 高橋屋	胴裏（灰汁浸け加工）
72	おお又 株式会社	胴裏（灰汁浸け加工）
73	株式会社 天野屋呉服店	胴裏（ぐんま200（灰汁浸け加工））、白生地
74	株式会社 きもの潮見	胴裏（パールトーン加工）
75	株式会社 とみひろ	胴裏（酵素精練）
76	株式会社 細安	胴裏（酵素精練）
77	京和きもの 株式会社	胴裏（酵素精練）
78	株式会社 まるため	胴裏（トルマリン加工、パーリー加工）
79	株式会社 小川屋	胴裏（トルマリン加工、灰汁浸け加工）
80	株式会社 エムラ	胴裏（酵素精練）
81	株式会社 荒井呉服店	胴裏（酵素精練）
82	株式会社 牛島屋	胴裏（酵素精練）、後染反物（小紋）
83	株式会社 谷呉服店	胴裏（酵素精練）
84	株式会社 登美屋	胴裏（パールトーン加工）
85	株式会社 川平屋	胴裏（パールトーン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
86	丸専第一衣料 株式会社（丸専きもの）	胴裏（パールトーン加工）
87	株式会社 大丸松坂屋百貨店	裏地（胴裏、比翼地（振袖用））、長襦袢地
88	西陣織工業組合	マフラー

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井紋 株式会社	後染反物（色無地）
92	有限会社 結城屋	白生地
93	株式会社 ウメシヨウ	白生地
94	株式会社 大徳	後染反物（色無地）
95	有限会社 カシワギ	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スーツ地、ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、シャツ））
96	株式会社 北尾織物匠	先染帯地（袋帯、名古屋帯）
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野 株式会社	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）
100	京商 株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）
101	株式会社 猪井	後染反物
102	株式会社 たちばな	後染反物
103	株式会社 丸富美	後染反物（色無地）
104	株式会社 絹もの屋まつなが	後染反物（色無地）
105	株式会社 山正山崎	後染反物（色無地）
106	有限会社 こくぶん呉服店	後染反物（色無地）
107	株式会社 染織近藤	後染反物（色無地）
108	株式会社 宮川呉服店	後染反物（色無地、付下）
109	株式会社 和らいふ	後染反物（色無地）
110	有限会社 きものいなもと	後染反物（色無地）
111	株式会社 世きね	後染反物
112	株式会社 西陣まいづる	先染帯地（袋帯（金銀糸が5%を超えるもの）、絹九寸帯（金銀糸が5%を超えるもの））
113	奥順 株式会社	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	ショール（天蚕紬糸、天蚕ハイブリット）
115	有限会社 金屋	後染反物（色無地）
116	株式会社 鶴屋百貨店	胴裏（酵素精練）、先染反物（結城紬）
117	黄八丈めゆ工房	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	後染反物（色無地）
119	合資会社 車屋呉服店	後染反物（色無地、江戸小紋）
120	宮崎 株式会社	結城紬
121	有限会社 内海呉服店きもの千歳屋	白生地
122	長島繊維 株式会社	後染反物（色無地）、後染帯地
123	株式会社 しょう美	後染反物（色無地）
124	合資会社 治田呉服店	後染反物（色無地）
125	株式会社 丸十	後染反物（小紋）
126	株式会社 竹田嘉兵衛商店	胴裏（酵素精練）
127	有限会社 樋口屋京染店	白生地（表地用（紋意匠））
128	大門屋	白生地（牛首紬）、後染帯地（牛首紬）
129	株式会社 加藤萬	和装小物（帯揚、半衿）
130	株式会社 しゃらく	後染反物（小紋）
131	合資会社 山中商店	後染反物（小紋）
132	きもの処 あだち	後染反物（小紋）
133	西川産業 株式会社	寝具寝装品（掛布団）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
134	繭工房 華美	寝衣（長肌着、短肌着）
136	株式会社 和想	後染反物（小紋）
137	株式会社 高島屋呉服店	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	ネクタイ、禪
139	株式会社 丸年呉服店	後染反物（小紋）
140	株式会社 染織館	後染反物（小紋）
141	株式会社 京ろまん	後染反物（小紋）
142	五嶋 株式会社	帯締
143	株式会社 わふくや	長襦袢地
144	株式会社 布屋呉服店	胴裏（トルマリン加工）、後染反物（小紋）
145	有限会社 明石屋	後染反物（色無地）、後染帯地
146	宮井 株式会社	風呂敷
147	株式会社 ナカノ	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、加賀友禪）
148	株式会社 芦田呉服店	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
149	株式会社 甲斐絹座	ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、トランクス）、パジャマ
150	有限会社 さいとう呉服店	後染反物（色無地、付下）
151	株式会社 西松屋	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	株式会社 西尾呉服店	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物 株式会社	先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
154	有限会社 石川	後染反物（型友禪、羽二重色無地）、先染反物（ジャガード織）
155	東朋 株式会社	ストール
156	那覇伝統織物事業協同組合	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	株式会社 ふじや	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
158	きものおかだ	後染反物（小紋）
159	株式会社 JS	寝具寝装品（ふとん、ふとんカバー）、洋装品（スーツ地、コート地、スカート地、服飾品（スカーフ、ストール、シャツ））
160	株式会社 マルシバ	裏地（胴裏）、和装小物（袱紗）
161	株式会社 みつわ	後染反物（小紋）
162	福統織物株式会社	先染帯地（本袋男帯、八寸名古屋帯）
163	株式会社 大谷屋	白生地（表地）
164	株式会社 東京藤屋（きものレディ着付け学院）	白生地（表地）
165	株式会社 染織こうげい	白生地（表地）
166	近江真綿振興会	寝具寝装品（布団、膝かけ）
167	株式会社 にしむら	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
168	有限会社 きものおおにし	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
169	株式会社 コノエ	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
170	株式会社 つたや	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
171	株式会社 京呉服小糸伸輔の店	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））

# 蚕糸関係博物館一覽

名 称	〒	住 所	電 話
<b>蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設</b>			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町1丁目1-87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13-1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫”(ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 (財) 日本きもの文化協会	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F~8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静市市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448-2 伊と幸ビル	075-254-5884
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
<b>展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設</b>			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5-1	0287-36-0949
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
<b>その他関連施設</b>			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1-16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉淵町権田 5344-1235	027-340-6060
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784



# 蚕糸関係機関ホームページ一覧

## 【行政】

農林水産省  
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>  
<http://www.meti.go.jp/>

## 【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会  
(社) 日本絹業協会 (シヤパソルクセンタ-)  
(社) 日本生糸問屋協会  
(財) 日本真綿協会  
丹後織物工業組合  
西陣織工業組合  
TAFS (東京織物卸商業組合)  
KOMs (京都織物卸商業組合)  
京都和装産業振興財団  
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>  
<http://www.silk-center.or.jp>  
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>  
<http://www.mawata.or.jp/>  
<http://www.tanko.or.jp/>  
<http://www.nishijin.or.jp/>  
<http://www.tafs.or.jp/>  
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>  
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>  
<http://www.kougei.or.jp/>

## 【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室  
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>  
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科  
<http://www.tuat.ac.jp/~aaiseisan/>  
(国) 東京農工大学工学部生命工学科  
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>  
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程  
<http://www.bio.kit.ac.jp/>  
(国) 京都工芸繊維大学  
<http://www.kit.ac.jp/>  
(国) 信州大学繊維学部  
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>  
(国) 名古屋大学農学部  
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>  
(国) 北海道大学応用分子生物学講座  
[http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l\\_in\\_bunshi\\_seibuts.html](http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html)  
(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室  
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>  
(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻  
[http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new\\_lab/index.html](http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html)  
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース  
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department/bio/biofunc/index.html>  
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科  
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>  
(独) 農業生物資源研究所  
<http://www.nias.affrc.go.jp>  
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所  
[http://www.silk.or.jp/silk\\_kagaku/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html)  
(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所  
[http://www.silk.or.jp/silk\\_gijyutu/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html)  
群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)  
[http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=50545](http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545)  
群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)  
[http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=59241](http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241)  
京都府織物・機械金属振興センター  
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>  
京都市産業技術研究所繊維技術センター  
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

## 【学会】

日本シルク学会  
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>  
<http://www.soc.nii.ac.jp/~jsss2/>

## 【博物館】

(財) シルクセンタ-国際貿易観光会館 シルク博物館  
群馬県立日本絹の里  
愛媛県西予市立野村シルク博物館  
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>  
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>  
[http://www.city.seiyo.ehime.jp/silk.](http://www.city.seiyo.ehime.jp/silk/)  
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

# 統計資料目次

## <国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	41
(2) 養蚕農家数の推移	42
(3) 繭生産数量の推移	43
(4) 平成23年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	44
(5) 平成23年度蚕期別、都府県別繭生産数量	45
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移(2009～2011年)	46
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	47
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	48
(9) 国産生糸価格実態	49
(10) 絹需給の推移(生糸量換算試算)	51
(11) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)	52
(12) 製糸工場の原料繭需給	53
(13) 製糸工場の操業状況	54
(14) 生糸在庫数量の内訳	55
(15) 蚕糸関係品目別輸入状況	56
(16) 生糸の原産国別輸入数量	57
(17) 絹糸の原産国別輸入数量	58
(18) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	59
(19) 絹織物生産数量	60
(20) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	61
(21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	62

## <海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	63
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	64
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数	65
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	66
(5) 中国のシルク類(生糸・絹糸・絹織物)の輸出状況	67
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率	68
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	69
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	70
(9) 中国省別従業員年平均賃金(2010年)	71
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	72
(11) ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移	73

—資料・国内—

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	收繭量 Cocoon Production	1戸当 收繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次 (暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
1996 8年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20年	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 21年	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 22年	756	265	351	0.9	7	49	35.9	11,612
2011 23年	621	220	354	0.7	7	50	34.7	10,419
前年対比 (%) 2011/10	82.1	83.0	100.9	77.8	100.0	102.0	96.7	89.7

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。  
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査である。  
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。  
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(社)日本絹人織機物工業会調査である。  
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。  
 ・平成23年以降の養蚕業は(財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)  
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)  
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)  
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)  
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

## (2) 養蚕農家数の推移

## Farm households raising silk-worm

(単位：戸)  
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		621	555	357	526
対前年比 2011/10(%)		82.1	85.4	72.3	82.6

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、  
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、(財)大日本蚕糸会調査(2009年～)。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (~2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002~2004).  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005~2008年).  
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移  
Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り取繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1993		11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	354	171	137	144
対前年比 2011/10 (%)		83.0	88.8	81.7	77.6	100.9	103.6	113.2	93.5
構成比 (%)		100.0	43.2	22.3	34.5				

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、  
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).  
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

#### (4) 平成23年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures in 2011.

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年間		
	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比
青森県	1	0	-	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	15	16	106.7	23	19	82.6	23	22	95.7	27	23	85.2
宮城県	21	16	76.2	17	16	94.1	21	17	81.0	28	22	78.6
山形県	10	9	90.0	9	7	77.8	9	8	88.9	11	10	90.9
福島県	71	51	71.8	65	44	67.7	76	56	73.7	83	60	72.3
茨城県	18	24	133.3	20	23	115.0	20	21	105.0	36	27	75.0
栃木県	37	33	89.2	25	24	96.0	38	31	81.6	40	33	82.5
群馬県	283	239	84.5	216	139	64.4	275	227	82.5	314	261	83.1
埼玉県	63	53	84.1	48	39	81.3	59	51	86.4	68	57	83.8
千葉県	10	7	70.0	7	5	71.4	8	8	100.0	11	8	72.7
東京都	6	5	83.3	0	0	-	5	4	80.0	7	6	85.7
神奈川県	9	0	-	10	0	-	10	0	-	12	0	-
新潟県	1	10	1000.0	1	2	200.0	1	0	-	1	10	1000.0
山梨県	24	24	100.0	7	9	128.6	21	20	95.2	27	26	96.3
長野県	28	23	82.1	19	17	89.5	25	21	92.6	31	26	83.9
岐阜県	18	14	77.8	8	0	-	17	17	84.0	21	18	85.7
愛知県	1	1	100.0	0	1	-	0	0	-	1	1	100.0
兵庫県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	0	-	1	1	100.0
愛媛県	17	15	88.2	15	10	66.7	18	12	66.7	19	17	89.5
高知県	4	4	100.0	0	0	-	3	2	66.7	5	4	80.0
熊本県	8	5	62.5	2	0	-	4	3	75.0	8	5	62.5
宮崎県	4	2	50.0	0	0	-	2	2	100.0	4	2	50.0
鹿児島県	0	3	300.0	0	0	-	0	3	300.0	0	3	300.0
全国計	650	555	85.4	494	357	72.3	637	526	82.6	756	621	82.1

資料: (財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(5) 平成23年度蚕期別、都府県別繭生産数量  
Cocoon production by prefectures in 2011.

(単位: kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比
青森県	-	-	-	137.4	156.3	113.8%	144.7	119.3	82.4%	282.1	275.6	97.7%
岩手県	2,017.6	1,977.5	98.0%	2,783.7	2,318.9	83.3%	3,049.7	2,474.0	81.1%	7,851.0	6,770.4	86.2%
宮城県	2,755.5	2,127.1	77.2%	2,335.9	2,341.8	100.3%	3,046.5	2,248.6	73.8%	8,137.9	6,717.5	82.5%
山形県	1,649.3	1,315.2	79.7%	761.7	767.4	100.7%	1,254.4	1,638.3	130.6%	3,665.4	3,720.9	101.5%
福島県	12,488.4	11,519.5	92.2%	11,946.4	8,972.5	75.1%	16,645.2	13,617.0	81.8%	41,080.0	34,109.0	83.0%
茨城県	3,672.0	4,486.0	122.2%	2,653.6	2,323.2	87.5%	3,181.4	3,028.4	95.2%	9,507.0	9,837.6	103.5%
栃木県	12,003.5	11,488.4	95.7%	4,465.3	5,259.7	117.8%	14,350.8	9,370.2	65.3%	30,819.6	26,118.3	84.7%
群馬県	49,138.1	42,178.0	85.8%	23,357.1	18,729.3	80.2%	38,871.7	28,938.0	74.4%	111,366.9	89,845.3	80.7%
埼玉県	9,018.9	7,692.5	85.3%	4,968.6	3,308.7	66.6%	6,903.5	6,061.7	87.8%	20,891.0	17,062.9	81.7%
千葉県	1,263.6	1,168.6	92.5%	671.7	569.4	84.8%	1,310.9	1,113.4	84.9%	3,246.2	2,851.4	87.8%
東京都	543.1	386.0	71.1%	-	-	-	342.3	163.3	47.7%	885.4	549.3	62.0%
神奈川県	884.8	-	-	584.8	-	-	637.9	-	-	2107.5	-	-
山梨県	3,851.7	3,665.7	95.2%	1,170.0	805.7	68.9%	2,508.8	2,233.2	89.0%	7,530.5	6,704.6	89.0%
長野県	3,016.2	2,714.3	90.0%	2,212.9	1,765.0	79.8%	2,533.0	2,440.2	96.3%	7,762.1	6,919.5	89.1%
新潟県	-	186.4	-	46.6	54.3	116.5%	51.9	-	-	98.5	240.7	244.4%
福井県	-	62.4	-	-	21.2	-	-	23.0	-	-	106.6	-
岐阜県	1,351.3	1,086.0	80.4%	232.8	-	-	687.4	614.1	89.3%	2,271.5	1,700.1	74.8%
愛知県	120.9	64.1	53.0%	-	-	-	-	-	-	120.9	64.1	53.0%
兵庫県	83.5	42.0	50.3%	80.0	35.0	43.8%	66.0	-	-	229.5	77.0	33.6%
京都府	102.4	111.4	108.8%	97.5	-	-	40.6	93.3	229.8%	240.5	204.7	85.1%
愛媛県	2,172.3	1,992.9	91.7%	1,183.1	1,350.5	114.1%	1,671.9	1,482.3	88.7%	5,027.3	4,825.7	96.0%
高知県	280.4	228.4	81.5%	-	-	-	128.1	86.7	67.7%	408.5	315.1	77.1%
熊本県	543.4	431.9	79.5%	-	-	-	271.6	91.8	33.8%	815.0	523.7	64.3%
宮崎県	136.6	115.2	84.3%	-	-	-	62.7	67.3	107.3%	199.3	182.5	91.6%
鹿児島県	-	1.5	-	-	-	-	-	6.6	-	-	8.1	-
全国計	107,093.5	95,041.0	88.7%	59,689.1	48,778.9	81.7%	97,761.0	75,910.7	77.6%	264,543.6	219,730.6	83.1%

資料: (財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

## (6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移 (2009~2011年)

## Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2009年 (平成21年)		2010年 (平成22年)		2011年 (平成23年)	
		箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号		4,803	34.9	3,420	26.2	2,729	24.6
錦秋 × 鐘和		2,400	17.4	2,400	18.4	2,100	19.0
春嶺1号 × 鐘月1号		1,565	11.4	2,072	15.9	1,419	12.8
ぐんま 200		1,622	11.8	1,627	12.5	1,388	12.5
春嶺 × 鐘月		900	6.5	1,001	7.7	1,002	9.0
かいりょう × あけぼの		442	3.2	487	3.7	435	3.9
新小石丸		317	2.3	355	2.7	396	3.6
芙蓉 × つくばね		300	2.2	300	2.3	180	1.6
上州絹星		204	1.5	51	0.4	86	0.8
世紀二一		218	1.6	191	1.5	132	1.2
緑繭1号		129	0.9	56	0.4	62	0.6
プラチナボーイ		71	0.5	73	0.6	66	0.6
朝日 × 東海		100	0.7			50	0.5
朝日 × つくばね		100	0.7	100	0.8	80	0.7
ぐんま 黄金丸		117	0.8	152	1.2	76	0.7
改良小石丸		87	0.6	87	0.7	78	0.7
白繭細1号		60	0.4	115	0.9	77	0.7
小石丸		73	0.5	75	0.6	72	0.6
蚕太		54	0.4	26	0.2		
蚕技研11号		61	0.4	53	0.4	52	0.5
分離白1号 × 支106号		9	0.1	8	0.1		
白繭細2号		20	0.1			2	0.0
新青白		9	0.1	14	0.1		
極細1号		21	0.2	30	0.2	5	0.0
玉小石		33	0.2	16	0.1	22	0.2
鷹山		29	0.2	25	0.2	20	0.2
支21号 × 四川3眠		6	0.0	4	0.0	6	0.1
又昔 × 中515号		6	0.0	5	0.0		
青熟 × 支21号		6	0.0	6	0.0	8	0.1
諸桂 × 紹興		4	0.0	4	0.0	1	0.0
黄白		5	0.0	5	0.0	15	0.1
青熟 × 中515号		2	0.0	3	0.0	2	0.0
青鬼縮 × 中515号		4	0.0	1	0.0	1	0.0
松岡 姫				200	1.5	300	2.7
いろど				39	0.3	134	1.2
鐘光 × 黄玉				35	0.3	30	0.3
太平 × 長安				7	0.1	13	0.1
支108号 × 青熟		2	0.0	5	0.0	7	0.1
はくぎん						22	0.2
秋光 × 竜白						5	0.0
秋花 × 銀嶺						3	0.0
中515号 × 又昔						2	0.0
琉球多蚕繭						2	0.0
合計 Total		13,779	100.0	13,048	100.0	11,080	100.0

資料：(財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.



## (7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,152	12,085	—	13,766	4,055	16,647	388	8,996	6,269
2010	882	12,209	—	13,817	3,329	16,306	324	9,029	6,299
2011	731	5,900	—	10,926	2,456	17,526	340	8,546	4,644
生糸年度 Silk Year									
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2010	814	12,207	—	13,815	2,935	16,307	324	9,000	6,299
2011	654	8,541	—	9,907	2,348	15,540	433	7,725	5,945
2011 - 4	70	372	—	851	3,154	1,674	15	741	562
5	66	1,280	—	1,501	2,999	1,797	17	910	440
6	63	760	—	890	2,932	1,731	30	762	667
7	59	489	—	608	2,872	1,489	29	780	457
8	53	547	—	590	2,882	1,498	47	706	443
9	61	420	—	932	2,431	1,340	45	610	568
10	56	765	—	790	2,462	1,165	78	515	530
11	64	550	—	820	2,256	1,202	47	656	469
12	52	717	—	569	2,456	1,001	32	636	508
2012 1	42	1,185	—	992	2,691	1,590	39	804	291
2	47	481	—	761	2,458	758	13	242	513
3	48	870	—	970	2,467	1,143	37	782	555
4	56	0	—	491	2,032	1,092	25	564	506
5	53	1,757	—	1,494	2,348	1,531	11	668	438
6	49	460	—	631	2,226	1,316	40	692	479
7	36	637	—	627	2,272	1,544	38	609	483

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (8) 生糸の織度別生産数量の推移

## Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	729	1	188	250	89	204
生糸年度 Silk Year						
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	—	205	358	208	242
2010	814	1	176	273	55	309
2011	652	1	164	239	117	134
2010 - 11	72	1	6	31	—	34
12	74	—	7	24	8	35
2011 - 1	53	—	27	12	4	10
2	69	—	16	23	5	25
3	65	—	18	15	10	22
4	70	—	13	22	7	28
5	66	—	18	18	6	24
6	63	—	11	29	7	16
7	59	—	13	23	—	23
8	53	1	9	24	6	13
9	59	—	15	23	6	17
10	56	—	23	14	12	7
11	64	—	6	37	10	12
12	52	—	19	10	16	7
2012 - 1	42	—	7	9	16	10
2	47	—	15	10	17	5
3	48	—	6	33	3	6
4	56	—	17	19	11	9
5	53	—	23	8	13	9
6	49	—	15	29	0	5
7	36	—	11	10	4	11

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～).

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (9) 国産生糸価格実態

## Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g  
(Unit：Yen/k g)

Year & Month \ Size		21d	27d	31d	平均 Average
2005		3,870	3,173	3,107	3,383
2006		4,617	4,267	4,080	4,321
2007		3,961	3,625	3,573	3,720
2008		4,266	3,754	3,489	3,836
2009		4,171	3,598	3,136	3,635
2010		4,152	3,891	3,564	3,869
2011		5,261	4,923	5,260	5,148
2010 —	9	4,209	3,965	3,625	3,933
	10	4,231	4,106	3,833	4,057
	11	4,338	4,149	3,912	4,143
	12	4,329	4,336	4,002	4,222
2011 —	1	4,267	4,287	4,127	4,220
	2	4,763	4,737	4,967	4,967
	3	4,800	4,619	4,556	4,658
	4	4,942	4,593	4,865	4,800
	5	5,188	4,699	4,853	4,913
	6	5,200	5,035	4,750	4,995
	7	5,600	5,109	5,327	5,345
	8	5,602	5,106	5,586	5,431
	9	5,778	5,237	6,078	5,698
	10	5,455	5,282	5,872	5,536
	11	5,733	5,138	5,657	5,509
	12	5,800	5,257	6,043	5,700
2012 —	1	5,799	4,682	6,119	5,533
	2	5,788	5,181	6,125	5,698
	3	5,859	5,006	6,177	5,681
	4	5,907	5,391	5,693	5,664
	5	5,190	4,973	5,300	5,154
	6	5,713	5,076	5,167	5,319
	7	5,700	5,088	5,208	5,332

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks：Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source：Japan Raw Silk Dealer's Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸B類(21デニール3A)

Standard Raw Silk:21d 3A

上段単位:元/kg、下段:円/kg  
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
9月中	9月	元	341.25	337.80	342.53	340.43
		円	4,436	4,391	4,453	4,426
	10月	元	341.85	339.90	343.43	341.85
		円	4,444	4,419	4,465	4,444
	11月	元	342.53	340.80	344.10	342.53
		円	4,453	4,430	4,473	4,453
	12月	元	344.03	341.93	345.75	344.18
		円	4,472	4,445	4,495	4,474
	1月	元	344.78	342.23	346.80	345.15
		円	4,482	4,449	4,508	4,487
	3月	元	348.15	340.43	351.00	349.35
		円	4,526	4,426	4,563	4,542
	4月	元	349.95	348.15	351.98	350.63
		円	4,549	4,526	4,576	4,558
	5月	元	349.95	348.15	351.53	350.40
		円	4,549	4,526	4,570	4,555
	7月	元	348.45	347.40	348.98	348.45
		円	4,530	4,516	4,537	4,530

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
10月中	10月	元	344.48	343.80	347.70	346.95
		円	4,478	4,469	4,520	4,510
	11月	元	346.20	345.00	348.08	346.88
		円	4,501	4,485	4,525	4,509
	12月	元	349.43	348.60	351.53	350.85
		円	4,543	4,532	4,570	4,561
	1月	元	350.70	349.95	353.10	352.95
		円	4,559	4,549	4,590	4,588
	3月	元	355.73	354.00	361.58	360.08
		円	4,624	4,602	4,700	4,681
	4月	元	357.30	356.03	361.43	359.93
		円	4,645	4,628	4,699	4,679
	5月	元	354.83	354.15	357.00	356.70
		円	4,613	4,604	4,641	4,637
	7月	元	349.43	349.28	349.95	349.80
		円	4,543	4,541	4,549	4,547
	9月	元	352.43	352.28	355.95	355.80
		円	4,582	4,580	4,627	4,625

円換算レートは、1元=13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

(10) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)  
(Unit: 1,000Bales of  
60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸入 Import					輸出 Export					内需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	152	16	0	0	15	1	136	43
対前年比 2010/09 (%)	95	75	100	102	100	100	107	102	80	100	—	—	100	100	78	91

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source : "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)  
After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production, Bureau MAFF.

## (11) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)

## Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2005	2006	2007	2008	2009	2010	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	2.8	155.6	2.1
	女子用外衣類 Women's upper garments	59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	38.4	103.5	28.9
	うちブラウス Blouse of the inside	3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	2.4	85.7	1.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	1.0	90.9	0.8
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	13.9	103.0	10.5
	ハンカチ Handkerchief	1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	0.3	75.0	0.2
	シヨール、スカーフ類 Shawl, scarves	3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	2.2	88.0	1.7
	ネクタイ類 Ties	25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	18.1	99.5	13.6
	メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting	19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	17.9	112.6	13.5
	その他の洋装類 Other western clothes	26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	21.0	95.5	15.8
洋装類計 Western clothes subtotal	161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	115.6	102.8	86.9	
和装類計 Japanese clothes subtotal	17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	14.5	91.2	10.9	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside	14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	12.5	89.9	9.4	
その他 Others	2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	2.9	152.6	2.2	
合計 Total	181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	133.0	102.2	100.0	

資料：財務省「日本貿易月報」により(社)日本生糸問屋協会で作成したものである。

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"  
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note: Total may not added up due to round off.

## (12) 製糸工場の原料繭需給

## Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2005	806	830	589
	2006	600	645	541
	2007	548	581	505
	2008	393	518	378
	2009	308	385	313
	2010	240	299	263
	2011	222	248	237
生糸年度 Silk Year				
	2005	837	693	390
	2006	562	599	349
	2007	502	583	266
	2008	406	452	224
	2009	324	337	209
	2010	260	281	188
	2011	202	224	144
2011 —	1	27	17	273
	2	5	23	255
	3	0	22	233
	4	1	24	210
	5	0	22	188
	6	46	21	213
	7	36	20	229
	8	34	20	243
	9	13	21	235
	10	41	20	256
	11	19	21	254
	12	0	17	237
2012 —	1	4	15	226
	2	0	16	210
	3	0	16	194
	4	0	19	168
	5	9	18	144
	6	37	16	165
	7	24	12	177

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).  
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

## (13) 製糸工場の操業状況

## Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	7	112	90	80	266	90
	2009	7	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
2010 —	7	7	118	75	64	17	84
	8	7	118	76	64	18	79
	9	7	118	72	61	22	79
	10	7	118	76	64	22	79
	11	7	118	73	62	21	79
	12	7	118	58	49	21	73
2011 —	1	7	118	58	49	20	67
	2	7	118	58	49	21	63
	3	7	118	60	51	23	62
	4	7	118	55	47	21	66
	5	7	110	55	50	20	64
	6	7	110	52	47	21	60
	7	7	110	55	50	22	56
	8	7	110	53	48	20	64
	9	7	110	64	58	21	65
	10	7	110	57	52	21	66
	11	7	110	55	50	21	66
	12	7	110	57	52	21	65
2012 —	1	7	110	51	46	18	63
	2	7	110	48	44	19	63
	3	7	110	47	43	19	63
	4	7	110	53	48	22	57
	5	7	110	60	55	21	56
	6	7	110	50	45	22	56
	7	7	110	38	35	14	57

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.



(14) 生糸在庫数量の内訳  
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一般在庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受入 数量 Accepts	引渡 数量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
年月 Year & Month									
暦年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	0	1,651	517			
生糸年度 (6~5) Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,205	4,205	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2010	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
2011	2,348	2,348	304	0	1,481	583			
2010 — 11	3,567	3,567	331	0	2,628	608			
12	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
2011 — 1	3,309	3,309	292	0	2,388	629			
2	3,148	3,148	284	0	2,219	645			
3	3,563	3,563	288	0	2,511	764			
4	3,154	3,154	288	0	2,182	684			
5	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
6	2,932	2,932	213	0	2,110	609			
7	2,872	2,872	229	0	2,095	548			
8	2,882	2,882	243	0	2,168	471			
9	2,431	2,431	281	0	1,729	421			
10	2,462	2,462	273	0	1,664	525			
11	2,256	2,256	282	0	1,559	415			
12	2,456	2,456	288	0	1,651	520			
2012 — 1	2,691	2,691	277	0	1,825	586			
2	2,458	2,458	271	0	1,694	493			
3	2,467	2,467	273	0	1,696	498			
4	2,032	2,032	284	0	1,380	368			
5	2,348	2,348	304	0	1,481	563			
6	2,226	2,226	299	0	1,344	538			
7	2,272	2,272	283	0	1,474	515			

資料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

## (15) 蚕糸関係品目別輸入状況 (平成19年~24年6月)

## Breakdown of Silk-Related Products Imports (2007~Jun. 2012)

	単位 Unit	平成24年(2012)		平成23年 (2011)	平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	23年/22年 2011/10 (%)
		(6月) Jun.	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	460	4,813	9,323	12,209	12,085	15,242	12,858	76.4
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,316	7,430	17,526	16,306	16,647	22,636	19,439	107.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	—	—	82	149	317	333	0.0
繭 Cocoon	kg	—	3,500	4,050	13,158	9,800	4,000	13,750	30.8
絹糸 Floss Silk	kg	—	—	—	—	—	29,071	28,660	—
ペニ Peigne	kg	—	—	—	—	35,331	2,770	6,336	—
くず繭 Waste Cocoon	kg	—	3,067	10,885	9,395	33,450	23,770	17,184	115.9
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	—	—	202,220	242,082	—
その他の 絹くず Other Silk Waste	kg	2,044	61,582	98,732	134,852	103,122	193,125	238,507	73.2
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	2,044	64,649	109,617	144,247	171,903	450,956	532,769	76.0
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	30,172	225,236	394,920	451,219	335,710	526,662	608,270	87.5
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	14,167	75,049	118,404	104,374	97,554	143,585	117,265	113.4
絹織物 Silk Fabrics	m <sup>2</sup>	79,696	395,123	8,545,903	9,029,003	8,996,010	11,540,335	11,355,333	94.6

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(16) 生糸の原産国別輸入数量  
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
	Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122 (-)	
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	0 (-)	41 (-)	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	0	32	-
2011	9,323 (45)	7,170 (20)	2,136 (25)	0	5	-
生糸年度 Silk Year						
2008	12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-
2009	12,857 (66)	8,787 (38)	3,896 (28)	11	73	-
2010	12,172 (79)	9,062 (65)	3,068 (14)	1	39	-
2011	8,602 (17)	6,846	1,754 (17)	1	39	-
2011 - 1	1,448 (13)	1,168 (10)	274 (3)	-	6	-
2	593	521	72	-	-	-
3	1,381 (15)	1,052 (10)	321 (5)	-	6	-
4	372	316	56	-	-	-
5	1,280 (11)	1,082	198	-	-	-
6	760 (7)	416	344 (7)	-	-	-
7	489 (10)	389	100 (10)	-	-	-
8	547	292	254	-	-	-
9	420	420	-	-	-	-
10	765	491	272	-	3	-
11	550	325	225	-	-	-
12	717	697	20	-	3	-
2012 - 1	1,185	1,149	36	-	-	-
2	481	289	193	-	-	-
3	931	870	61	-	-	-
4	0	0	0	-	-	-
5	1,757	1,508	249	-	-	-
6	460	360	99	-	-	-
7	637	526	110	-	-	-

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。  
2. ( ) 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.  
2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(17) 絹糸の原産国別輸入数量  
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year&Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	212
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,722	79
生糸年度 Silk Year									
2008		18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009		17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2010		17,729	—	11,117	4,927	8	—	1,482	195
2011		15,540	—	9,060	4,364	44	—	1,713	303
2010 —	6	1,325	—	889	296	—	—	135	4
	7	1,573	—	1,026	352	—	—	144	50
	8	1,303	—	784	382	—	—	137	0
	9	1,235	—	811	302	—	—	121	1
	10	1,254	—	754	366	—	—	132	2
	11	1,453	—	790	526	13	—	81	56
	12	1,485	—	877	465	1	—	141	1
2011 —	1	1,790	—	1,108	543	—	—	139	—
	2	982	—	559	312	—	—	110	—
	3	1,858	—	1,244	467	2	—	134	10
	4	1,674	—	1,124	448	2	—	99	3
	5	1,797	—	1,151	468	1	—	109	68
	6	1,731	—	906	628	—	—	197	1
	7	1,489	—	910	432	0	—	155	1
	8	1,498	—	730	432	0	—	225	—
	9	1,340	—	745	543	1	—	51	—
	10	1,165	—	542	309	—	—	243	70
	11	1,202	—	672	297	—	—	232	—
	12	1,001	—	692	219	—	—	28	61
2012 —	1	1,590	—	1,075	353	—	—	80	82
	2	758	—	378	216	1	—	162	1
	3	1,143	—	747	281	2	—	113	—
	4	1,092	—	662	326	25	—	103	24
	5	1,531	—	1,001	328	15	—	124	63
	6	1,316	—	727	515	26	—	75	27
	7	1,554	—	907	488	9	—	97	62

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

## (18) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

## Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, Kg/円

項目 Item	輸入生糸 (通関ベース)				輸入絹糸 (通関ベース)					
	Raw Silk Imprt				Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
年月 Year & Month	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2011 - 1	1,168	4,370	274	4,055	1,108	4,372	139	4,519	543	3,901
2	521	4,626	72	4,293	559	4,578	110	4,465	312	3,890
3	1,052	4,729	321	4,196	1,244	4,723	134	4,882	467	4,031
4	316	4,661	56	4,604	1,124	4,846	99	4,972	448	4,260
5	1,082	4,767	198	4,505	1,151	4,946	109	5,022	468	4,040
6	416	4,792	344	4,510	906	4,967	197	5,412	628	4,579
7	389	4,893	100	5,918	910	4,990	155	5,741	432	4,726
8	292	4,570	254	4,964	730	4,922	255	5,594	763	4,710
9	421	4,483	0	0	745	4,665	51	5,991	543	4,792
10	491	4,174	272	5,310	542	4,735	283	5,833	309	4,655
11	325	4,199	225	5,209	673	4,432	232	6,027	297	4,681
12	697	4,469	20	5,492	692	4,309	28	6,313	219	4,560
2012 - 1	1,149	4,180	36	5,260	1,075	4,131	92	5,958	353	4,345
2	289	4,024	193	5,297	378	4,137	162	5,560	216	4,264
3	870	4,296	61	5,241	747	4,323	113	6,187	281	4,731
4	0	0	0	0	662	4,372	103	6,065	326	4,887
5	1,508	4,311	249	5,220	1,001	4,304	124	6,048	328	4,625
6	360	4,347	99	5,005	727	4,370	75	5,876	515	4,703
7	526	4,220	110	5,013	907	4,502	97	5,930	488	4,591

資料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau , Ministry of Finance

Remarks: A unit price is CIF price.

# (19) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)  
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	4,015	1,732	1,193	1,090	5,663	3,449	2,214	1,794
2010	11,612	3,844	1,510	1,254	1,080	6,212	4,029	2,183	1,556
2011	10,319	3,941	2,486	184	1,257	4,396	1,796	2,590	1,982
2011 — 3	902	345	217	16	110	384	157	226	173
4	998	381	240	18	122	425	174	250	192
5	846	323	204	15	103	360	147	212	162
6	925	353	223	17	113	394	161	232	178
7	843	322	203	15	103	359	147	211	162
8	790	302	190	14	96	336	137	198	152
9	800	305	193	14	98	341	139	201	154
10	833	318	201	15	102	355	145	209	160
11	892	341	215	16	109	380	155	224	171
12	902	345	217	16	110	384	157	226	173
2012 — 1	801	365	199	16	151	255	143	112	181
2	818	373	204	16	154	260	146	115	185
3	829	378	206	17	156	263	147	116	187
4	829	378	206	17	156	263	147	116	187
5	863	393	215	17	162	274	154	121	195
6	883	403	220	18	166	281	157	124	200
7	863	393	215	17	162	274	154	121	195

資 料：(社)日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

## (20)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)		
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year	
年月 Year & Month									
暦年 Calendar Year									
2005	19,821	90.3	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7	
2006	18,526	93.5	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4	
2007	15,479	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5	
2008	13,914	89.9	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7	
2009	9,930	71.4	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1	
2010	11,661	117.4	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1	
2011	10,319	88.5	475,989	92.3	70,803	84.3	695,143	80.9	
2010 —	4	997	101.0	44,458	101.1	7,506	110.9	86,802	122.7
	5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
	6	1,103	109.3	44,180	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7
	7	1,014	105.8	44,163	109.5	7,146	110.8	63,858	101.9
	8	901	105.6	39,856	105.9	7,022	124.4	60,415	141.3
	9	962	99.9	41,925	94.7	6,925	114.0	64,965	121.3
	10	995	105.4	46,366	114.9	5,807	96.3	78,060	135.0
	11	1,004	102.7	45,283	95.1	6,553	94.7	68,940	104.3
	12	966	103.1	45,018	104.1	5,616	92.7	68,067	110.1
2011 —	1	814	97.6	32,734	102.6	5,452	91.0	61,927	96.0
	2	873	93.0	42,369	91.7	6,027	94.7	60,552	88.7
	3	902	93.5	41,784	95.3	6,898	88.3	56,128	74.1
	4	989	99.2	44,774	100.7	6,507	83.6	59,998	69.1
	5	840	85.6	39,714	93.4	6,096	89.3	62,562	88.8
	6	911	82.6	41,785	94.6	6,072	79.2	60,832	84.0
	7	834	82.2	43,509	98.5	5,399	72.9	53,800	84.2
	8	779	86.5	34,386	86.3	6,064	82.6	49,057	81.2
	9	788	81.9	38,639	82.6	5,394	74.0	61,501	94.7
	10	821	82.5	39,116	84.3	5,589	92.5	51,586	66.1
	11	879	87.5	37,346	82.5	5,929	84.0	62,567	90.8
	12	889	92.0	39,833	88.5	5,376	90.3	52,433	77.0
2012 —	1	801	98.4	29,890	91.3	4,787	87.8	51,823	83.7
	2	818	93.7	38,352	90.5	5,632	93.4	65,046	107.4
	3	829	91.9	37,766	90.4	5,306	76.9	62,163	110.8
	4	829	83.8	42,234	94.3	5,614	86.3	57,688	96.1
	5	863	102.7	33,283	83.8	6,109	100.2	56,873	90.9
	6	883	96.9	43,214	103.4	5,335	87.9	47,616	78.3
	7	863	103.5	39,999	91.9	5,967	110.5		

資料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は(社)日本生糸問屋協会調査。

備考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

## (21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

## Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
年月 Year & Month												
暦年 Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2010	290,244	0.3	11,499	▲ 2.9	245	▲ 6.0	4,459	▲ 2.3	2,353	▲ 3.8	1,069	▲ 1.0
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.0	4,273	▲ 4.2	2,425	3.1	1,100	2.9
2010 - 8	293,361	1.7	8,718	▲ 1.0	174	▲ 52.6	2,946	5.0	2,094	▲ 3.3	960	7.5
9	275,367	0.0	9,165	▲ 4.1	395	84.4	3,074	▲ 5.9	1,915	▲ 9.4	916	0.4
10	287,433	▲ 0.4	12,763	5.1	238	215.7	5,000	7.5	2,642	▲ 0.9	1,305	9.3
11	284,212	▲ 0.4	12,530	▲ 7.8	221	▲ 6.7	5,025	▲ 9.6	2,385	▲ 3.4	1,310	▲ 5.1
12	327,006	▲ 3.3	12,802	▲ 11.3	69	▲ 79.9	5,205	▲ 9.5	2,280	▲ 13.2	1,435	▲ 12.8
2011 - 1	289,191	▲ 0.3	12,521	▲ 3.7	120	17.2	5,405	▲ 8.1	2,749	6.1	1,135	9.3
2	260,793	0.5	8,720	▲ 6.7	282	▲ 36.0	3,802	▲ 5.0	1,445	▲ 12.3	735	2.5
3	291,900	▲ 8.2	11,013	▲ 16.0	451	92.1	5,014	▲ 19.8	1,772	▲ 15.4	773	▲ 10.2
4	292,559	▲ 2.0	11,212	5.0	92	▲ 20.2	4,183	2.3	2,398	14.0	900	10.0
5	276,159	▲ 1.2	11,906	▲ 0.7	49	▲ 60.7	4,099	0.4	2,789	▲ 1.1	1,158	7.6
6	265,807	▲ 3.5	11,384	▲ 0.6	113	44.8	3,620	▲ 7.0	2,907	5.5	1,234	11.8
7	280,046	▲ 2.1	12,078	▲ 1.9	281	▲ 63.3	4,068	4.0	3,103	1.9	1,329	6.1
8	282,008	▲ 4.1	8,921	1.8	456	159.0	2,693	▲ 9.6	2,059	▲ 2.8	943	▲ 0.5
9	270,010	▲ 1.9	8,709	▲ 5.0	221	▲ 44.4	2,966	▲ 3.7	1,895	▲ 1.6	863	▲ 5.1
10	285,605	▲ 0.4	13,099	2.3	625	161.8	5,023	▲ 0.2	2,790	4.8	1,201	▲ 7.4
11	273,428	▲ 3.2	13,230	5.6	490	122.6	5,026	0.1	2,649	10.0	1,280	▲ 1.1
12	328,080	0.5	13,786	7.7	54	▲ 21.5	5,382	3.3	2,547	10.9	1,644	15.9
2012 - 1	283,124	▲ 2.3	13,148	4.3	271	125.6	5,496	0.9	2,675	5.5	1,132	▲ 0.2
2	267,855	2.3	8,829	0.5	380	34.9	3,713	▲ 3.3	1,543	4.5	733	0.4
3	303,841	3.4	12,167	10.2	148	▲ 67.1	5,512	10.2	2,065	13.2	878	14.9
4	301,948	2.6	11,687	4.3	95	2.9	4,399	5.4	2,434	1.1	934	5.0
5	287,911	4.0	11,592	▲ 2.5	124	150.1	3,801	▲ 7.2	2,771	▲ 0.7	1,072	▲ 6.6
6	269,810	1.6	11,208	▲ 1.4	169	49.2	3,627	0.4	2,760	▲ 5.4	1,169	▲ 4.5
7	283,295	1.7	11,920	▲ 1.5	239	▲ 15.4	3,923	▲ 3.7	3,161	0.7	1,286	▲ 2.8

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&amp;footwear includes japanese clothing , clothing , shirts&amp;sweaters and other items.

Year value is mean of the each month



# 一資料・海外一

## (1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,261	135,462	132,038
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
トルコ	Turkey	170	350	130
インドネシア	Indonesia	691	339	470
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
シリア	Syria	5.5	3	2.5
主要国の計	Total	810,680	937,810	965,570

区 分		2008年	2009年	2010年
		トン	トン	トン
日本	Japan	382	327	265
中国	China	683,387	575,299	617,915
インド	India	124,834	131,661	131,924
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	6,266	4,835	4,439
タイ	Thailand	7,700	4,655	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,760	25,896	20,000
イラン	Iran	1,185	1,185	1,185
トルコ	Turkey	126	140	140
インドネシア	Indonesia	273	133	161
ブルガリア	Bulgaria	48	51	75
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	6	4	4
シリア	Syria	3	4	4
主要国の計	Total	871,070	765,290	801,867

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

## (2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	16,245	270,800
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
インドネシア	Indonesia	91	1,500	47	800	65	1,100
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
シリア	Syria	0.7	0	0.5	0	0	0
主要国の計	Total	109,940	1,832,300	115,973	1,933,100	130,451	2,174,200

区 分		2008年		2009年		2010年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	95	1,600	69	1,200	53	900
中国	China	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900	95,778	1,596,300
インド	India	15,610	260,200	16,322	272,000	16,360	272,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,177	19,600	811	13,500	770	12,800
タイ	Thailand	1,100	18,300	665	11,100	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,417	23,600	2,447	40,800	2,100	35,000
イラン	Iran	180	3,000	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	15	300	20	300	20	300
インドネシア	Indonesia	37	600	19	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	6.3	100	9.4	160
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.4	0	0.6	0	0.6	0
主要国の計	Total	120,514	2,008,600	115,250	1,920,800	118,211	1,970,160

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

### (3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2009	2010	対前年比 2010/09	2009	2010	対前年比 2010/09
山 西	Shanxi	4,046	5,894	146	266	182	68
河 北	Hebei	1,200	1,500	125	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	73,175	77,399	106	17,800	16,000	90
浙 江	Zhejiang	45,600	57,000	125	15,000	14,436	96
安 徽	Anhui	24,800	25,000	101	5,200	6,438	124
江 西	Jiangxi	7,602	7,000	92	2,900	3,591	124
山 東	Shandong	23,900	22,000	92	5,800	7,510	129
河 南	Henan	10,101	7,500	74	2,100	103	5
湖 北	Hubei	17,150	10,600	62	555	446	80
湖 南	Hunan	3,182	2,452	77	104	197	189
広 東	Guangdong	53,321	39,300	74	1,722	1,711	99
広 西	Guangxi	172,900	214,000	124	16,237	18,164	112
重 慶	Chongqing	17,311	17,200	99	4,200	4,000	95
四 川	Sichuan	70,000	71,000	101	14,900	14,900	100
貴 州	Guizhou	2,751	1,460	53	105	134	128
雲 南	Yunnan	30,230	40,000	132	2,237	2,138	96
陝 西	Shaanxi	17,200	17,600	102	3,263	3,664	112
甘 肅	Gansu	253	304	120	-	-	-
寧 夏	Ningxia	126	126	100	-	-	-
新 疆	Xinjiang	450	580	129	-	-	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	66	64	97
合 計	Total	575,299	617,915	107	92,455	95,778	104

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

#### (4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China (1998年～2009年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	前年比 10/09(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	0.1	0.2	125
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	0.4	0.6	146
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai						0.0	0.0						
江 蘇	Jiangsu	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	7.3	7.7	106
浙 江	Zhejiang	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	4.6	5.7	125
安 徽	Anhui	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	2.5	2.5	101
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	0.8	0.7	92
山 東	Shandong	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	2.4	2.2	92
河 南	Henan	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	1.0	0.8	74
湖 北	Hubei	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	1.7	1.1	62
湖 南	Hunan			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	77
広 東	Guangdong	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	5.3	3.9	74
広 西	Guangxi	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	17.3	21.4	124
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	1.7	1.7	99
四 川	Sichuan	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	7.0	7.1	101
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	53
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	3.0	4.0	132
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	1.7	1.8	102
甘 肅	Gansu						0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia						0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
合 計	Total	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	57.5	61.8	107

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

## (5) 中国のシルク類（生糸・絹糸・絹織物）の輸出状況

中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China  
(2011年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	4,114,330	77.39	209,055	99.41
2 ルーマニア	Romania	728,603	143.27	38,055	188.12
3 ベトナム	Vietnam	624,467	90.79	30,709	111.16
4 韓国	South Korea	466,392	88.91	24,529	115.70
5 日本	Japan	402,960	83.31	22,568	111.16
6 イタリア	Italy	312,007	89.72	17,274	116.30
7 バングラデシュ	Bangladesh	88,325	52.99	4,362	70.01
8 ミャンマー	Myanmar	82,273	104.43	4,205	138.86
9 ブラジル	Brazil	44,245	100.00	2,354	100.00
10 パキスタン	Pakistan	40,709	47.66	1,967	62.88
11 その他	Others	217,448	70.29	11,646	97.37
合計	Total	7,121,759	83.70	366,724	108.23

中国のシルク類の輸出状況  
Silk Exports of China  
(2012年1月～7月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 インド	India	2,685,893	114.82	123,848	96.59
2 ベトナム	Vietnam	388,564	127.90	17,934	110.85
3 ルーマニア	Romania	325,282	111.77	15,943	103.99
4 日本	Japan	254,899	93.88	13,526	87.32
5 韓国	South Korea	249,541	92.13	12,065	81.75
6 イタリア	Italy	146,683	89.70	7,387	80.69
7 バングラデシュ	Bangladesh	65,156	193.42	2,878	159.64
8 ミャンマー	Myanmar	49,421	107.73	2,300	91.56
9 ブラジル	Brazil	25,207	90.18	1,367	87.83
10 ブルガリア	Bulgaria	23,570	300.91	1,163	269.00
11 その他	Others	103,132	80.64	5,066	72.47
合計	Total	4,317,348	111.18	203,477	95.79

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	869,361	51.22	44,614	65.61
2 日本	Japan	653,654	103.35	37,423	139.39
3 イタリア	Italy	531,110	99.37	30,546	133.79
4 パキスタン	Pakistan	269,373	56.51	14,021	71.53
5 ドイツ	Germany	200,792	99.30	10,260	136.17
6 韓国	South Korea	182,339	96.21	9,758	124.35
7 タイ	Thailand	135,954	90.15	7,874	123.34
8 インドネシア	Indonesia	94,087	108.31	4,865	144.63
9 マレーシア	Malaysia	33,138	60.02	1,702	76.47
10 ベトナム	Vietnam	31,400	95.95	1,603	106.34
11 その他	Others	182,519	58.21	8,392	87.15
合計	Total	3,183,727	72.82	171,058	97.32

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 日本	Japan	361,003	83.56	19,205	77.32
2 インド	India	249,570	46.44	11,464	39.14
3 イタリア	Italy	202,168	58.26	10,477	51.97
4 ドイツ	Germany	158,132	146.15	8,452	162.58
5 パキスタン	Pakistan	147,292	124.13	7,111	105.40
6 韓国	South Korea	116,416	115.35	5,692	102.42
7 タイ	Thailand	66,631	71.60	3,337	61.56
8 インドネシア	Indonesia	59,609	105.79	2,900	94.49
9 ベトナム	Vietnam	33,751	141.58	1,606	130.85
10 リビア	Libya	15,507	—	1,152	—
11 その他	Others	123,782	110.60	6,429	109.59
合計	Total	1,533,861	79.50	77,825	72.48

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 パキスタン	Pakistan	49,142,622	93.07	162,071	121.71
2 イタリア	Italy	33,520,431	67.64	185,559	106.99
3 インド	India	32,139,948	56.67	144,785	74.37
4 韓国	South Korea	14,649,985	85.76	101,387	112.05
5 香港	Hong Kong	13,900,523	89.56	83,993	119.62
6 日本	Japan	10,567,943	90.72	46,593	116.75
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	7,508,512	88.65	37,343	119.20
8 マレーシア	Malaysia	6,361,626	81.22	37,976	99.90
9 米国	United States	6,247,924	103.71	44,198	125.30
10 チュニジア	Tunisia	6,132,107	115.84	11,006	140.29
11 その他	Others	37,726,968	87.92	203,149	114.01
合計	Total	217,898,589	79.57	1,058,060	106.60

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11(%)	2012年実績	12/11(%)
1 パキスタン	Pakistan	24,861,794	101.41	89,443	111.20
2 イタリア	Italy	17,243,204	78.96	96,647	83.53
3 インド	India	12,599,223	68.61	58,305	70.69
4 香港	Hong Kong	8,280,149	108.07	59,368	115.21
5 韓国	South Korea	6,975,098	81.05	46,197	90.44
6 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	5,656,673	117.32	35,331	154.36
7 日本	Japan	5,556,210	80.94	25,431	84.67
8 マレーシア	Malaysia	4,191,649	103.53	24,003	96.96
9 米国	United States	3,402,096	93.47	24,939	97.84
10 トルコ	Turkey	2,380,124	70.51	13,462	76.86
11 その他	Others	18,797,920	79.33	96,305	86.93
合計	Total	109,944,140	86.28	569,431	92.94

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関  
Source: Customs General Administration in China

## (6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Wage Bill (100million yuan)				対前年増減率 (%) Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,255.8	6,172.6	1,210.6	672.7	21.8	17.4	15.6	42.2
1996年	9,249.4	6,893.3	1,269.4	801.7	12.0	11.7	4.9	19.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5
2010年	47,269.9	24,886.0	1,433.7	20,949.7	17.3	13.8	12.6	22.1

資料：中国統計年鑑(2011)

Source: China Statistical Yearbook 2011

## (7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年増減率 (%) Indices (preceding year=100)							
					名目賃金 Average Wage				実質賃金 Average Real Wage			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	18.9	17.3	21.1	19.9	1.8	0.4	3.7	2.6
1996年	5,980	6,207	4,312	8,521	11.8	11.8	9.6	10.3	2.8	2.7	0.7	1.3
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	13.3	12.4	16.5	14.2	9.8	8.9	12.9	10.7

中国統計年鑑2011 Source: China Statistical Yearbook 2011

## (8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	6,884	7,498	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717
採掘業 Mining	13,627	16,774	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196
製造業 Manufacturing	12,671	14,251	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	18,574	21,543	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309
建築業 Construction	11,328	12,578	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	15,753	18,071	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466
情報通信コンピューターサービ ス Information Transmission, Computer Service and Software	30,897	33,449	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	10,894	13,012	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	11,198	12,618	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382
金融業 Financial Intermediation	20,780	24,299	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146
不動産業 Real Estate	17,085	18,467	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	17,020	18,723	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	20,442	23,351	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	11,774	12,884	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	12,665	13,680	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206
教育 Education	14,189	16,085	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	16,185	18,386	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	17,098	20,522	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428
公共機関、社会团体 Public Management and Social Organization	15,355	17,372	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242
合計 Total	13,969	15,920	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539

(出所)中国統計年鑑2011

Source: China Statistical Yearbook 2011

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
製造業 Manufacture	184,236	192,389	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908
合計 Total	203,109	214,920	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007
年別人民元yuan/円yenレート	14.54	13.50	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00



## (9) 中国省別従業員年平均賃金(2010年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region		年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)	
北	京	Beijing	65,158	847,054	178.32
天	津	Tianjin	51,489	669,357	140.92
河	北	Hebei	31,451	408,863	86.08
山	西	Shanxi	33,057	429,741	90.47
内	蒙	Inner Mongolia	35,211	457,743	96.37
遼	寧	Liaoning	34,437	447,681	94.25
吉	林	Jilin	29,003	377,039	79.38
黒	龍	Heilongjiang	27,735	360,555	75.91
上	海	Shanghai	66,115	859,495	180.94
江	蘇	Jiangsu	39,772	517,036	108.85
浙	江	Zhejiang	40,640	528,320	111.22
安	徽	Anhui	33,341	433,433	91.25
福	建	Fujian	32,340	420,420	88.51
江	西	Jiangxi	28,363	368,719	77.62
山	東	Shandong	33,321	433,173	91.19
河	南	Henan	29,819	387,647	81.61
湖	北	Hubei	31,811	413,543	87.06
湖	南	Hunan	29,670	385,710	81.20
広	東	Guangdong	40,432	525,616	110.65
広	西	Guangxi	30,673	398,749	83.95
海	南	Hainan	30,775	400,075	84.23
重	慶	Chongqing	34,727	451,451	95.04
四	川	Sichuan	32,567	423,371	89.13
貴	州	Guizhou	30,433	395,629	83.29
雲	南	Yunnan	29,195	379,535	79.90
西	蔵	Tibet	49,898	648,674	136.56
陝	西	Shaanxi	33,384	433,992	91.37
甘	肅	Gansu	29,096	378,248	79.63
青	海	Qinghai	36,121	469,573	98.86
寧	夏	Ningxia	37,166	483,158	101.72
新	疆	Xinjiang	32,003	416,039	87.59
全国平均		Average	36,539	475,007	100.00

(出所) 中国統計年鑑2011 Source: China Statistical Yearbook 2011

(注) 1元=13円 Note: 1yuan=13yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移  
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9~8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1988/89	11,470
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,038 (68%)
2011/12	2,619 (86%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1988	1,748,996	29,150
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	770,000 (95%)	12,833
2011	557,633 (72%)	9,294
2012 〔見込み〕 〔Estimate〕	452,500 (81%)	7,542

資料:ブラジル製糸協会

注:( )内は対前年比

[ ]内の見込みは2012年8月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of August 2012.

## (11)ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移

Raw Silk and Thrown Silk Yarns Exportation

区 分		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
		kg %	kg %	kg %	kg %	kg %
日本	Japan	388,498 34%	442,264 44%	296,578 34%	294,346 38%	245,106 48%
ベトナム	Vietnam	381,433 33%	243,950 25%	308,464 36%	217,347 28%	126,563 25%
フランス	France	96,764 8%	101,391 10%	74,747 9%	53,441 7%	87,886 17%
イタリア	Italy	93,903 8%	83,032 8%	68,418 8%	143,159 19%	39,295 8%
韓国	South Korea	33,924 3%	43,844 4%	25,259 3%	27,916 4%	0
トルコ	Turkey	54,529 5%	21,370 2%	16,165 2%	21,131 3%	3,660 1%
ドイツ	Germany		6,095 1%		3,742 0%	6,143 1%
インド	India	68,687 6%	38,072 4%	73,181 8%	3,600 0%	0
チュニジア	Tunisia	8,466 1%	2,428 0%		2,609 0%	1,205 0%
スイス	Switzerland	17,861 2%	11,344 1%	758 0%	256 0%	0
その他	the others	6,232 0%	1,012 0%	3,189 0%	242 0%	200 0%
合 計	Total	1,150,297 100%	994,801 100%	866,759 100%	767,789 100%	510,058 100%

資 料 : ブラ拓製糸株式会社の統計値

Source : BRATACBTS. COM.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

**<http://www.silk-teikei.jp/index.html>**

シルクレポート 2012年11月号 NO.27 平成24年11月1日発行

編集 / 発行  
(問い合わせ先)

**(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター**  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館5階  
TEL : 03-3214-3500  
FAX : 03-3214-3511  
URL: <http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず